

目 次

1. 卷頭の辞

部 長 横井 嘉文

2. 66期の卒業に寄せて

総監督 道本 光一郎 (25期)
監 督 大橋 健人 (58期)

3. 祝 辞

O B会会長	山崎 幸二	(27期)
名譽顧問	吉田 圭秀	(30期相当)
O B (評議員)	世良 達裕	(39期)
O B (評議員)	味崎 利光	(42期)
O B (事務局長)	土田 吉彦	(45期)
O B (評議員)	河上 篤史	(46期)
O B (評議員)	上野 輝寿	(50期)
O B (評議員)	大東 太陽	(54期)
O B	牧田 哲平	(61期)

4. 66期挨拶

5. 67期主将挨拶

67期主将 原 裕典

6. 顧問名簿

7. 部員紹介

67期部員
68期部員
69期部員

8. 年間成績

9. O B会だより

10. 編集後記

1. 卷頭の辞

防衛大学校硬式野球66期生の卒業に寄せて

部長 横井 嘉文



「66期の皆さん、現役引退ご苦労様でした。そしてOBの仲間入りおめでとうございます。卒業はできそうですか？できたらいいですね、そうなったらおめでとうございます。」（この原稿を書いている時点では卒業はまだ確定していないので。。。）本年度は前年度から暴れまわっていた中華コロナの影響下で年間活動を終えました。春合宿中には中華コロナ蔓延防止体制の下オープン戦を数試合こなし、春のリーグ戦では2位の座を得て前半を終了しました。秋には優勝を目指し活動を開始したとたん多くの困難試練（相変わらず続く中華コロナ関連の活動制限や退部による部員数の減少）が部に降りかかってきました。夏合宿の途中取りやめ、予定していた全ての練習試合の中止などで組織的練習ができず、チーム未練成の状態であり、また中華コロナ禍にあって秋シーズン前の目標を「10試合棄権無しに行うこと」とするぐらい達成目標を下げました。そういう目標とは裏腹に悪運強く結果は3位となりAクラス残留となりました。66期の奮闘の賜でした。新OBとなる皆さんは、現役の学生が野球を行えるのはOB会の皆様が陰ながらの応援をしてくれているという事を良く理解していると思うので、今度は自分がそういった立場になるのだという事を自覚して現役を支える側にまわって大いに活躍してくれる期待します。

今シーズンも昨シーズン同様、一般観戦可能な試合日が1日のみであり、その日に合わせてOB会の皆様が応援観戦していただけたこと誠にありがたく感謝申し上げる次第です。一般観戦ができなくなった代償？として実況放送や録画配信がYouTubeで行われました。これは連盟の新しい試みとして行われたものと思われます。そこで防衛大学校硬式野球部でもリーグ戦において新しい試みを2つ行いました。ひとつは試合の顛末のレポートです。連盟のホームページに見られるような試合の得点経過を記した試合結果とバッテリーの名前、長打を放った者の名前の記載だけではなく、試合運びや得点（失点）に至った経過をイニシングごとに短い言葉で要点を実況中継よろしく報告者の感情を入れて報告したものです。この試合レポートは後から読み返してみると当時の試合状況が蘇り、回顧資料として価値が高

いとともに文書にて残るため資料価値も高いものとなりました。もうひとつは試合での選手の貢献度を攻撃面と守備面の両側面から評価し数値化したことです。記録に上がらない勝利への貢献を知ることができるようになりました。今後はこれらの試みを続けて行く上で必要な改良を加え、やがては定着することを期待したいと思います。

67期以下の現役部員達は「何のため防大で野球というものをするのか」を良く考えて野球をやってほしいと願います。未だ見ぬ後輩たちのためにこの素晴らしい硬式野球部を存続させる使命がある事を忘れてはいけません。遊び半分、レクレーション、学生生活の憂き晴らし等が理由で野球をやるのは止めてください。(退部して他の部で学生生活の一端を楽しんでくれ。) ちゃんとした規律や躰を踏まえて野球に取り組み将来の幹部になるための糧として野球をやってください。規律があり躰がしっかりしているチームは強いということに気が付いてほしいですね。

野球部OBの方々が次々と舞戻ってきて運営スタッフも一層充実してきました。これもOB会からの支援の賜であります。ようやくあの暗黒時代が明けて光が差す兆しが見えてきました。

{寄稿} チームの目標をはかる、チーム勝負点について

部長 横井 嘉文

自分の原稿に自身が「寄稿」するのはいささか変であるが、原稿の体裁上の都合を忖度していただきたい。リーグ戦に挑むにあたって、その戦い方の計画無しには最良の結果が得られるはずもない。闇雲に2部優勝という目標を掲げても実際にそれが実現したためしがない。星取りを意識して計画を立ててリーグ戦に臨むことが肝要である。コロナ禍の現在、2部は勝率制が敷かれ1校2試合毎でリーグ戦が進行している。各校から2勝ずつ勝ち取れば完全優勝であるが、現状では到底その目標すらあり得ない。まずは現状維持（定着）あわよくば1つ上狙いであろう。どこにどう勝てば良いのかを知る方法を考えたので以下に記す。表1は対戦相手の順位ごとに割り振った勝負ポイントを示している。強い相手に勝つと高ポイントであり、弱い相手に負けると高いマイナスのポイントになる。春のリーグ戦の結果は2位であったが、一部より落ちてきたチームが2部1位に自動的になつたため3位で秋のリーグ戦を迎えることとなった。それゆえ表1にて、3位校が防衛大学校となる。現状維持又はその上を狙うのであれば、勝負ポイントが8（4ポイント×2）以上必要となる。ここで、上位校2校に全て負けて、下位校3校に全て勝てば他校の星取りの具合で現状維持はあるが、勝負ポイントは6であり目標には到達できない。最も安直で堅実なプランは4位校以下に全勝し、上位校のどこかに1勝すれば目標は到達できるが、現実には取りこぼしや番狂わせというものがある。表2は秋シーズンの顛末を示したものである。最下位校（田大）に1つ勝ち順調なスタートを見せたが、上位校（2位国大、1位鶴大）に順当に2つとも負けている。現状維持を確保するには、下位校相手の残りの試合を全て取りこぼさないことが必然となる。しかしながら6戦目の5位校（工大）に負けてしまい、自力で単独3位を確保することは出来なくなった。さらに8戦目にも4位校（市大）にも負け、いよいよ他力本願を期待することになる。最終的には下位校の星の取り合いのどさくさによって、現状維持と相成った。表3は勝率と前回の順位を考慮した秋シーズンの順位と各校の勝負ポイントの累積を示したものである。優勝校と2位校は3位以下から全く取りこぼすことなく勝ち続けているため、プラスの勝負ポイントとなっている。なお、両校は直接対決で分けて9勝しているが、順位が反映して勝負ポイントに僅差が生じている。（最終的に順位はプレーオフで決定した。）一方、3位以下は下位校からの取りこぼしがあるため、マイナスの勝負ポイントとなっている。ここで、3位と4位は4勝、5位と6位は2勝してそれぞれ同じ勝率であるが、対戦校によってその勝敗の勝負ポイントが異なるためその累積ポイントにて逆転が生じていることは興味深い。勝率が同じ場合は前シーズンの成績が上位の方を上位とするルールが無ければ、防大は4位となっていることになる。今回の「Aクラス残留」は手放しでは喜べないです。

表1 勝負ポイント割り振り表

対戦相手	1位校	2位校	3位校	4位校	5位校	6位校
勝ポイント	6	5	4	3	2	1
負ポイント	-1	-2	-3	-4	-5	-6

表2 秋シーズンの顛末

対戦チーム	田大	国大	国大	鶴大	鶴大	工大	工大	市大	田大	市大
結果	1	-2	-2	-1	-1	-5	2	-4	1	3
累積ポイント	1	-1	-3	-4	-5	-10	-8	-12	-11	-8

表3 秋シーズンの順位と各校の累積ポイント

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
チーム	国大	鶴大	防大	市大	工大	田大
累積ポイント	25	23	-8	-6	-18	-16

{寄稿} チームへの貢献をはかる、貢献ポイントについて

4学年 内主務 スコアラー 山田 圭花

部長の発案により今までとは異なる視点から各選手の裁定を行う事になりました。もともとは部長の卒研部屋所属の野球部卒研生に対して、卒研時間を野球に打ち込む練習時間として費やしたその結果を評定するために導入した試みだったそうです。（基準を満たさなければ留年というプレッシャーが掛けられていたみたいです。）表4は打者と投手における評価動作と貢献ポイントを示したものです。野球は打撃で点を取るだけのスポーツではなく守備でアウトを取るスポーツでもあります。それゆえ攻撃面と守備面の両側面から評価する必要があります。例えば2塁に走者がいて、打者が2塁打を打ったとしましょう。打者はベースを2回踏んでいるので2ポイント、走者がホームインした場合は打点として2ポイントがつき合計4ポイントになります。走者も2回ベースを踏んでいるので2ポイント与えられます。1塁に走者がいてダブルプレーとなった場合は。走者に-1ポイント、打者に-1ポイントが与えられます。守備において、ゴロを送球してアウト、フライを取ってアウトにしたら1ポイント与えられることになります。このような評定を各試合のスコアシートを見返して出場選手ごとに貢献ポイントをまとめてみました。表5は秋シーズンでの貢献ポイント上位5名を示したものです。攻撃のポイントが高いのはチャンスに強い者、守備のポイントが高いのは守備が堅実な者であることが分かります。総合ポイントが群を抜いて高い者がベストプレーヤーであることが分かります。一方、投手については評価動作の規定が遅れてポイント付の作業が滞ったため、現段階ではまとめに至っていません。（申し訳ありません。次年度のスコアラーさんよろしくお願いします。）

表4 評価動作と貢献ポイント

打者	ポイント	投手	ポイント
ベース1踏み毎	1	イニングゼロ毎	1
捕殺毎	1	三振奪取毎	1
打点毎	2	牽制アウト毎	2
アウト毎	-1	四死球毎	-1
エラー毎	-2	ボーグ・暴投毎	-2

表5 貢献ポイントランキング（打者） ベスト5

順位	氏名（学年）	攻撃合計	守備合計	総合計
1	斎藤(4年)主将	42	18	60
2	斎藤(2年)	21	19	40
3	加子(3年)	15	19	34
4	原(3年)次期主将	6	22	28
5	加藤(4年)副主将	9	12	21

{寄稿} 試合運びの報告レポート作成について

4学年 3墨コーチ 菅崎 正浩

試合運びの報告レポートとは従来から行われていた試合結果（例えば、～大学戦1－2で負け等）の速報配信に加えて、試合経過をイニングごとに要点をまとめ、感想を入れたものです。試合運びや得点の経過を盛り込み、時には3墨コーチや上級生目線で寸評を交えて作成しました。速報については、外主務の滝沢学生がSNSを活用し今年度についても行っていましたが、それよりも少し詳しい試合レポートを行うことで主力の選手の活躍はもちろん、補欠の名脇役や現役選手の名前をはじめとした後輩たちのことをOBの方々により知って頂くと同時に、交流を盛んにし、卒業後のコミュニケーションに役立てるという狙いがありました。顧問団の指示により、他大学で行われていたものを参考に始めたものでしたが予想外の反応があり、OBの方々からの期待を強く感じました。OB会長まで届いていることを知った時は大変驚きましたが、より一層気合いを入れて作成いたしました。

少しでもお楽しみ頂けていたのであれば幸いです。来年度以降、後輩達が引き継いでいきます。ご愛読ありがとうございました。

2. 66期の卒業に寄せて

第66期の卒業に寄せて

総監督 道本 光一郎 25期（空）



第66期生諸君、卒業おめでとう。4年間の硬式野球部での奮闘、誠にご苦労様でした。今後は幹部自衛官として國の守りをよろしくお願ひします。

そして第67期から第69期までの学生諸君は、第70期の新入生の野球部への勧誘と今春からのリーグ戦の準備をよろしく頼みます。私の監督時代の教え子、第58期の大橋1陸尉が小隊指導教官として着任し、監督として硬式野球部の指揮を執って最初のシーズンが終わりました。昨年、一昨年と続いた「コロナ禍」はなかなか収束を見通せない状況が続いています。これからもいろいろと不測の事態も予想されますが、部長や監督を中心として臨機応変に対応していただきたいと思います。

昨年の春季リーグ戦は、コロナ禍の影響で変則的な実施でしたが、2部リーグで「準優勝」、その後の夏合宿も不十分だったにもかかわらず、秋季リーグ戦は同じく2部リーグで「3位Aクラス」を確保しました。卒業する第66期は堂々とこの戦績を誇って良いと思います。

しかし残念ながら「野球以前の様々な問題」も多く発生し、部長や監督を始めとする顧問団を大いに悩ませたことも事実です。私が監督時代の口癖として、「野球人の前に社会人としてしっかりとせよ」ということを言い続けました。野球だけうまくても、人間としてちゃんとしていかなければ、卒業後の幹部自衛官としての長い道のりは乗り越えていけないと思います。これは私の30数年間の自衛官生活で、身をもって経験したことです。大橋監督はこの言葉の意味をしっかりと受け止め、継承してくれていると確信しています。

私は第25期として40数年前に小原台を巣立ちました。そしてこの「花立野球場」（本当は訓練場だけれど）は、私が2学年時、昭和53年11月1日に開設されました。今から44年前です。その後については前回の球友紙面でも紹介しましたし、また、昨年12月に実施したOB戦後のミーティングなどでも在校生に披露しました。（学生時代の総監督の写真を参考まで披露します！！）

繰り返しになりますが、この「花立野球場」はOB等の多くの先輩方の苦労の賜物として今でも立派に存在しています。この伝統を絶やすことなく、将来に、そして未来に受け継がれていくことを切に希望しています。新しいユニフォームでの初陣は比較的スムーズに行きました。これからもどうか1部リーグ復帰を目指して、一致団結、皆で頑張って行きましょう。

(2022. 1. 6記)

監督1年目を終えて

監督 大橋 健人 58期（陸）



1 はじめに

令和2年12月1日、防大に小隊指導教官として着任し、そのまま監督に就任し、早いもので1年が経過しました。コロナ禍での運営など様々な困難がありましたが、現役学生の奮闘、横井部長をはじめとする顧問の方々及び山崎OB会長をはじめとするOB会の方々の温かいご指導により、ここ数年の数字的な結果の低迷を払拭する礎となる7季ぶりのAクラスである春2位、秋3位というひとつの結果を残すことができ、満足はしておりますが、少しホッとしています。母校かつ防衛省・自衛隊で唯一無二の大学野球の監督はやりがいしか感じません。

この1年の監督生活を通して感じたことを、長くはなりますが、いくつかに区分して述べたいと思います。

2 66期のみんなへ

66期政権がはじまり約1カ月半が経過したところで、私が着任しました。当初は、私の考えとチーム全体の考えに大きなギャップがあり、厳しく指導することも多くありました。しかしながら、主将の斎藤学生をはじめとして、66期のみんなと対話を重ねることで、少しずつチームとして同じ方向を向くようになり、結果に表れるようになったのではないかと思います。

「楽しくやりたい」という発言がよくありました。顧問の方や、同じ指導教官の同僚にそれについて相談すると「学生としての責務を全うした上で、厳しさを追求した中での楽しさ」というような大体同じようなニュアンスの回答が返ってきます。私もほぼ同感であり、先輩方からそのように教わってきました。彼らが言う「楽しい」はそれではなく、普段の練習を「楽」したい、はき違えた意味での「自由」というものであったかと思います。古臭い考え方だというような意見もあるかと思います。しかし、防大での校友会活動は学生の自主的な活動であり、準硬式もあれば、他にも校友会があります。当初、みんなに質問したのは、様々な校友会がある中で、なぜ「硬式」なのか、何のために

やっているのか、どうなりたいのか、しきりに質問してきました。時代による流れ、技術のなどは昔とは変わっていくし、変えていかなくてはいけないことは多くあります。しかし、根底にある硬式野球部としての伝統は継承していかなければならぬし、自分にはその役割があるのだと言い聞かせ、何度も話をしました。その結果、10名を超える部員が転部という結果となってしまったのは、私の力不足であり、残った部員には大変大きな負担を与えてしまい、申し訳なく思っています。

さて、色々なことがありましたが、春は6勝2敗で2位、秋は4勝6敗ながら3位であり、66期政権通算では、10勝8敗と2つの勝ち越しです。年間通して勝ち越せたことは、大変素晴らしい、66期政権の努力の賜物であると思います。さらには、エース浦川学生が春の最優秀投手賞及び敢闘賞（4勝0敗 防御率0.50 36回）に選出されたことは、間違いなく防大硬式野球部史に残ることです。秋には主将齊藤学生が、打線が低迷し、マークが集中する中での打率3位、打点2位と、素晴らしい結果を残してくれました。また、試合で結果を残しただけではなく、外主務滝沢学生、内主務山田学生を中心としてチーム運営をしてくれたことに感謝したいと思います。

硬式野球部引退をもって、今後、幹部自衛官として、野球の技術を評価されることはありません。しかしながら、この4年間で学んだであろう「野球以外の部分」は今後の部隊勤務での力になることを信じています。そして、この中の何人かが将来的に硬式野球部に直接関わってくれることを期待します。

ちなみに、本気の野球は、防大が最後と言われがちですが、自ら道を切り開けば、なんとかなります。興味のある人は是非、私や60期主将宮下君、61期主将牧田君のように部隊勤務の傍ら硬式野球を続けてください。

3 67期以下のみんなへ

66期が引退し、寂しい気持ち、清々した気持ち、いろいろいろいろでどう笑原主将を中心として、66期政権で残した成績の更に上に行けるように、「野球以外の部分」、「試合の結果」の両方にこだわってやっていきましょう。

4 O B会の方々へ

日頃から現役部員のために、ピッティングマシン購入をはじめとして物心両面にわたるサポートしていただきありがとうございます。特に、8月の夏合宿直前（校内でのコロナ発生により中止）に46期河上先輩、50期山下先輩には、花立の草刈りを手伝っていただくなど、非常に多くのサポートをいただき感謝してもしきれません。今後ともよろしくお願ひします。

併せて、本書後半に、O B会費納入方法を記載しておりますので、是非ともご協力お願いします。現役学生に対するサポートやO B会の充実に使わせていただきます。

5 最後に

今年度、開校祭の棒倒し競技において私が所属する3大隊が優勝し、優勝看板を見る機会がありました。みなさんご存知かと思いますが、各種競技会の優勝看板の裏には優勝した大隊等の責任者が記名するのが伝統です。今回、確認できただけでも、46期河上先輩をはじめとして、56期～60期、62期の優勝大隊の総長は全て硬式野球部でした。その方々は、硬式野球部でも主力、学生舎生活でも各種学生長を務めるなど、学生隊の中心的存在でした。それぞれ別々の大隊で、これだけ名前が残るのは、単なる偶然ではなく、三本柱を高い水準で実践する硬式野球部の「伝統」に他ならないと感じております。

2016年春を最後に、花立での公式戦が行われていません。かつては2部リーグのほとんどを花立て実施していたこともあります。連盟側との信頼関係も回復しつつあり、来シーズンは、花立てでの公式戦復活も予定しておりますので、みなさまと花立ての公式戦でお会いできることを楽しみにしております。数々の先輩が積み重ねてきた伝統を継承しつつ、新たな風を吹かせられるよう日々邁進してまいりますので、引き続き、応援よろしくお願いします。

最後に、この場をお借りして、昨年、訓練中の事故で亡くなられた61期植崎廉僕（れんし）君のご冥福をお祈り申し上げます。

3. 祝　辞

ご挨拶

O B会会長　統合幕僚長　山崎　幸二　27期（陸）



第66期硬式野球部の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、部の活動においてご尽力いただいている横井部長、道本総監督、大橋監督をはじめ、関係者の皆さんに感謝申し上げます。

令和3年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルスにより日本のみならず世界の多くの方々が感染症対策を余儀なくされたものの、東京オリンピック・パラリンピックの開催等コロナ禍にありながらも前向きに進もうとする人々の姿を目にする機会が多かったように思えます。また、オリンピックでの野球日本代表による金メダル獲得や、昨年度は惜しくも中止となりましたが、全国高校野球選手権大会での球児たちの澁刺としたプレーを見て勇気付けられた方々も多く、改めて、野球というスポーツの素晴らしさに触れることができた1年でもあったと思います。

卒業生の皆さん、今年1年の野球生活は、コロナ禍にありながらも日々汗を流し、1部昇格という目標実現のために試行錯誤の連続であった思います。是非ともその経験を大事にしてください。最上級生として、これまで誰も直面したことのない問題に立ち向かったことだと思います。感染症対策を講じつつ、限られた時間において皆で考えて行った練習や試合で得た経験は、これから自衛隊生活の糧になります。我々自衛隊は、国家国民の負託に応えるため日々様々な任務に従事しています。任務を遂行する上で、天を仰ぎたくなる難局に直面することもあります。そんな場面では、必ずや、この経験が生かされるもの信じています。防大硬式野球部で培ったもの、そして同期・球友との絆を大切にして下さい。

第67期以下の皆さんには、これまで先輩が築き上げてきた成果や野球への思いを引き継ぎ、「2部優勝、1部昇格」の夢を実現してもらいたいと思います。

最後に、改めて、第66期生の皆さんのが今後の自衛隊における活躍を祈念するとともに、部の活動に際しOB会としてできる限り支援していくことを誓い、ご挨拶といたします。

防大66期生の卒業に際して

名誉顧問 陸上幕僚長 吉田 圭秀 30期相当（陸）



66期の皆さん、卒業おめでとうございます。同時に66期の13人全員が任官し、幹部自衛官として国防の志を同じくする仲間となることを大変嬉しく思います。

約30年前、防大小隊指導教官時代に監督を拝命し、36期から39期の学生とともに花立野球場で汗を流しました。当時は1部に所属しておりましたが、スカウティングや練習量に勝る強豪私学を倒し、如何に上位に入るか、学生と共に試行錯誤したことが良い思い出です。そして何よりも、指導者側から言われることなく、4学年がリーダーとして率先垂範し、3学年以下がそれぞれの役割に応じたフォローワーシップを發揮し、学生が主体となって組織を動かす防大の文化に触れられたことは、初級幹部だった当時の私にとって大きな刺激となりました。

現在、我が国を取り巻く安全保障環境は、これまでにない非常に厳しい状況にあります。学生の皆さんにも、その緊張感は伝わり、危機感を有していると思います。こういう時においても、卒業後に幹部自衛官となり、隊員の先頭に立って任務に邁進することを使命とする防大生にこそ、校友会活動は重要です。野球部の活動のように、多くの制約の中、質・量に勝る私学を相手に、「1部昇格」を達成するため試行錯誤する過程は、幹部自衛官として必要な資質の涵養にも繋がるものと信じています。これからも真剣に野球に取り組み、1部昇格という目標に向かって邁進してもらいたいと思います。

結びに、日頃からご指導を頂いた横井部長、道本総監督、大橋監督はじめ、防大の関係者の皆さんに感謝申し上げるとともに、防大硬式野球部の今後の活躍を祈念いたします。

人ととのつながり

評議員 世良 達裕 39期（空）

第66期の硬式野球部の皆さん、ご卒業おめでとうございます！

『球友』への寄稿の機会をいただいたので、ぜひ一言お祝いの言葉を述べさせていただきたいと思います。

私の野球人生は、小学校ではソフトボールをやっていましたが、中学ではできず、高校では野球部を新設しようとしたらグラウンド拡張時に堅穴式住居の遺跡が出てきてこれまた叶わず、結局大学からのスタートになりました。防大現役時代は、「4番・サード」でした。2軍ですが。主務も務めました。結局レギュラーは獲れませんでしたが、一番大好きなスポーツである野球にこだわり、そしてサードにこだわった4年間でした。打撃にしても守備にても、一連の動作にスムーズさが足りず、ドラえもんのような動きであったのか、同期からは「世良えもん」と呼ばれていました。上手な人の動きを観察し会得するだけではなく、自分のプレーを録画するなどして研究する等、もっと自分自身を観察し改善・向上させるべきであったと、今さらですが反省しています。

私が卒業生の皆さんに強くお話ししたいのは、私はレギュラーは獲れなかつたものの、防大での野球を通じて得られるものは、防大のみならずその後の部隊に行つても必ず生きるということです。幹候校卒業後の初任地は那覇基地でしたが、私が配置になった隊には野球部があり、即座に入部しました。幹部はほんのわずかしかおらず、大半は空曹空士であり、空士といってもみな年上ばかりでしたが、ここで育んだ人間関係は、いまや私の財産になっています。職務上の上下関係はもちろん厳格にありますが、職務と切り離した場を通じて、野球の技量を向上させるほか、互いの人となりを知り、自由闊達なコミュニケーションを図り、時には自分の親父のような年齢の空曹から泡盛のうまい飲み方を吐くまで教えてもらい、そうして強い信頼関係を構築し、それを職務にフィードバックし部隊を精強化させる、そういう好循環ができていました。いまは退官されましたが当時の隊の野球部の部長を務めていた准空尉や、同じ野球部で任期満了退職した空士長とは、今でも年賀状のやり取りをやっています。初任地の勤務の後半には、防大同期の同じ硬式野球部の島田君が隊に転入してきたので、また一緒に野球をすることができました。とても感慨深いものでした！さらには、私がいま勤務する空幕の課には、たまたま防大硬式野球部の後輩がいるんです！たった四十数人しかいない職場に！しかも2人も！

このように、防大での野球は私に「人ととのつながり」をもたらしてくれた、とても大切な、とても意義深いものとなっています。花立での練習は厳しかったと思いますが、同期や先輩後輩とともに乗り越えた皆さんの頑張りは、野球の技量向上にとどまらず、自衛隊勤務に必要な体力や精神力、そして人間力の向上に、必ず生かされることと思います。

第66期の卒業生の皆さんにおかれでは、防大での野球経験が今後の部隊での人と人との新たな素晴らしいつながりを生み、益々御活躍されることを心から祈っています！

ご卒業、本当におめでとうございます！

後輩へ送る言葉

評議員 味崎 利光 42期（空）

66期硬式野球部の皆さんご卒業おめでとうございます。24期前の硬式野球部のOBの一人として一言ご挨拶を申し上げます。

突然ですが、皆さんにとって防大の4年間はどうでしたか？多くの人が大きく前進、成長できたと感じているのではないでしょうか。私もその一人です。防大における3本柱は、ご存じのとおり、「教育訓練」、「学生舎生活」、「校友会活動」です。その中でも特に「校友会活動」は、部の運営をほぼ100%学生に委ねられていると言っても過言ではありません。そのため、苦しいことやつらい時期もあったかもしれません、自主自律の精神やリーダーシップを養う場として最適だったのではないか。」「教育訓練」「学生舎生活」もさることながら、「校友会活動」において得たもの、例えば、下級生を引っ張っていくためのリーダーシップ、ライバル校に勝つために練った作戦の立案に係る能力、先輩・後輩・同期との絆と信頼関係、そして何より苦楽を共にした仲間との貴重な時間、経験、思い出などは一生の宝となることでしょう。思い返せば、私も42期の主将として、1部昇格を目指し、限りある時間の中でどうしたらライバル校に勝つことができるか、このことだけを考えて毎日生活を送っていた気がします。残念ながら春季・秋季リーグともに入れ替え戦で敗退し、目標達成には至らなかったのですが、そのために努力したことは決して無駄であったとは思っていません。むしろ目標達成のために費やした努力や仲間との時間が今となってはかけがえのない財産であり、また、幹部自衛官として勤務する上での貴重な見取り稽古になったと思っています。

皆さんは、これから幹部自衛官という立場で陸海空の自衛隊の一員として責任ある立場での活躍が期待されます。皆さんも感じているとおり、今自衛隊は変革の過渡期にあり、また日本を取り巻く安全保障環境も非常に厳しいため、皆さんの中に立ちはだかるハードルは決して低いものではないでしょう。しかし何も心配することはありません。防大4年間で培ったことを糧に、失敗を怒れることなく、自信と誇りをもって自分と仲間を信じて前に突き進んでください。そうすれば、どんな困難に直面しようともやがて希望の光が見えてくるものです。実際に私がそうでしたから。

やや抽象的な話になってしまいましたが、皆さんにとって少しでも参考になればと思い筆をとらせていただきました。最後まで読んでいただいた方に御礼を申し上げますとともに、皆様の更なるご発展とご健勝をご祈念申し上げ、結びとさせていただきます。ご卒業、誠におめでとうございます。



防大53期硬式野球部OBの伊豆3佐(班員)を指導中の私

卒業おめでとう！

事務局長　土田　吉彦　45期（陸）

66期の皆さん、卒業おめでとうございます。今後は、同じ自衛官として勤務できることを大変嬉しく思います。卒業する66期の後輩の皆様に、自身の防大硬式野球部の経験を踏まえ、一言述べさせていただきます。

今から約20年前、私は、45期防衛大硬式野球部主将として、仲間とともに真剣に白球を追いかけていました。当時の防大硬式野球部は2部リーグに所属しており、ライバルである横浜市立大学と1部リーグへの入れ替え戦でいつも戦っていました。仲間とともに横浜市立大学の投手の球筋やくせを研究し、捕手の配給傾向を分析した上で、防大硬式野球部に足りない打撃力を磨くため、右打ちやバント攻撃等の練習を繰り返し、来たる横浜市立戦に備えていたのを今でも覚えています。毎試合緊張しつつも、心も身体もやる気に満ち溢れていた、その時の試合に向かっていく心境は、高校3年の最後の公式戦に挑んでいた時の心境と全く同じでした。当然、それだけ真剣に取り組んでいたからこそ、時に真剣にぶつかり合い、そして、ともに戦いに挑んだ防大硬式野球部の仲間たちは、未だにかけがえのない戦友です。

66期の皆さんも、卒業後は、これまでの団体生活から離れ、全国の各任地において1人で勤務することになると思います。その時に、慣れない環境や厳しい訓練の時に挫けそうになってしまっても、全国のどこかで野球部の仲間がともに頑張っていると思えば、必ずや困難を乗り越えていけると思います。66期の皆さん、防衛大硬式野球部で培った財産をもって、各任地でご活躍されることを心より祈念しております。

私は今市ヶ谷において防大硬式野球部事務局長としてOB会活動を企画させて頂いています。新型コロナウイルスの影響により、OB会としての活動は制限されておりますが、「少しでも現役野球部員のために」を合言葉に事務局一同、頑張っています。

66期のさんは、今度は我々と同じ後輩の頑張りを支える立場になります。硬式野球部事務局が率先して、OB会事業として同期の仲間と出会える場を設定しますので、まずは年会費を納めて頂いた上で、積極的な現役野球部への支援をお願いいたします。防大硬式野球部の発展のため、ともに頑張りましょう。

最後に、今後の防大硬式野球部の活躍を祈念しますとともに、防大硬式野球部が1部リーグに昇格できるよう防大硬式野球部事務局長として誠心誠意職務を全うしていくことをお誓い申し上げます。

花立野球場・花立訓練場・花立ヘリポート

評議員 河上 篤史 46期（陸）

卒業おめでとうございます。また、OB会への入会を心から歓迎します。

私は、現在統合幕僚監部で勤務していますが、卒業して陸上自衛官となり、既に20年近くが過ぎ色々と花立での経験について思うところがあります。

私は、統合幕僚監部において、防大のための検討部会である防大調整部会に係る業務や防大の卒業式等に係る調整を業務として実施しています。防大関連の業務に携わることは幸せであり、花立を思い出す機会となっています。おそらく野球部以外の卒業生は「花立訓練場」、防大指導官を経験した卒業生は訓練調整等の観点から「花立ヘリポート」としての記憶があるのではないでしょうか。色々な顔を持つ花立地区、野球場として汗を流した思い出、訓練場として泥だらけになった経験、ヘリ離発着を目の前にした感動等々を花立は防大生に与えていると思います。そんな恵まれた環境で野球をしていたことを卒業して改めて感謝しています。恥ずかしながらその感謝の気持ちは学生時代には全く皆無でした。もちろん、学生の私には、卒業後にOB会活動に携わることは想像できませんでした。しかし、卒業し自衛官として隊員等と汗を流しているうちに、防大硬式野球部の経験が糧になり、業務を成していることに気づきました。

硬式野球部で出会った先輩、同期、後輩は、今でも仕事でつながることがあります。また、それまで直接会ったことがない先輩であっても、「先輩、自分は硬式野球部です」との一言で、踏み込んだ人間関係が構築され、親身な対応をしてもらうことがあります。このような人間関係ができるのも、硬式野球部つながりのいいところだと思います。

そこで得た人間関係は、卒業後、先輩・後輩のつながりがさらに広くなり、仕事の上でも太い人脈として役に立ちます。

ぜひ、卒業される66期生は、野球で培ったことを仕事に生かしてください。常に後輩に関心を持ち、自らも積極的に「自分は花立硬式野球部です」と声をかけてください。

私は、今市ヶ谷において防大硬式野球部評議員としてOB会活動に参加させてもらっています。携われることに感謝もしています。令和3年10月3日（日）に藤田副会長とともに戸塚で行われた鶴見大学との試合を応援にいきましたが、その時OB会の団結の強さ、学生に対する期待を感じ、それを励みにOB会関係諸先輩とともに事務局の活動をしています。

卒業される皆さんにはOB会の活動も期待され、後輩の頑張りを支える立場になりますが、花立て培った防大硬式野球部の繋がりは強く、今後の自衛官生活においても役に立つ場面は存在します。

まだまだ、皆さんの野球人生は終わりではありません。防大硬式野球部の発展のためOBとしてともに頑張りましょう。

卒業生へ送る言葉

評議員 上野 輝寿 50期（海）



はじめに

66期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。皆さんは、この4年間「1部昇格」という目標を達成するために、計り知れない努力を積み重ねてきたことだと思います。加えて、今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスが猛威を振るう中で様々な制約を受けての活動となり、色々と試行錯誤しながらの1年であったと思います。大変お疲れさまでした。

今回、球友への寄稿機会を頂きましたので、私の思い出などを交えながら防大硬式野球部を卒業する66期生の皆さんへ想いを伝えたいと思います。

1 学生時代の思い出

私は小中高と野球を経験し、高校までは外野手としてプレーしてきましたが、防大に入ってからは「何か新しいことに挑戦しよう」と思い、投手に挑戦しました。しかしながら、私は小柄で腕も手指も短く、さらに高校まで外野手としての身体づくりしかやってこなかったので、コントロールが悪い上に変化球も投げられず、とても投手には向いていませんでした。打撃練習で打撃投手を務めてもなかなかストライクに入らず、打者の皆さんには多大な迷惑をかけていました（ドカベンの岩鬼相手だったらどれだけ楽だったことか）。当然、公式戦への出場機会は与えてもらはず試合に出ることはできませんでしたが、当時の私には高校時代に甲子園を目指していた時ほどの野球に対する「真剣さ」はなく、むしろ「大学野球は楽しくやるもの」というイメージを持っていました。ですので、試合に出られなくてもさほど気にしていなかつたように思います。

そんな野球に対する私の気持ちに変化が現れ始めたのは、49期生が引退し私たち50期が政権を担うことになった頃からだったと記憶しています。この頃の私は、それまでの練習の成果かわかりませんが（一応3年間練習してきたので）、先発で登板して5イニングくらいまで投げさせてもらえる程度になっていました。

当時の投手陣は、第1戦を完投型のエースが投げ抜いて勝ち、第2戦を残りの投手陣で継投して勝つという起用法をとっており、もし1勝1敗で第3戦までもつれ込んだ場合は、第1戦で先発したエースが第3戦に先発していました。ところが実際は、第2戦で投手陣が崩れ継投が上手くいかないことが多く、第1戦で先発したエースを第2戦にも登板させてしまうということが多くありました。こういった経験を経て、当時の私は「何とかして第2戦をエース抜きで勝たなければ。自分がしっかりしないと。」と、ある意味自己の役割のようなものを自覚し、練習に取り組みました。

2 卒業生へ伝えたいこと

防大を卒業した後、66期生の皆さんには自衛官となり、それぞれ任務に応じて役割が与えられます。野球の試合では、完投型のエースのように高い技能を有していれば個人の力で成果を挙げられるかもしれません、我々自衛隊に課せられた任務はそう単純ではありません。より厳しさを増す安全保障環境の下、陸海空各自衛隊がそれぞれ課せられた任務に対してどのように能力を発揮するのか、そのために各自衛隊を構成する我々自衛官個人はどのように役割分担して動くべきか、常に考えておく必要があります。幸いにして、66期生の皆さんには4年間の学生舎生活及び野球部としての活動を通して、これらの素地は備わっていることと思います。これから自衛官としての生活に不安を感じている者もいるかと思います。もしくは、今後の生活で「ダメかも」とあきらめそうになることがあるかと思います。そんなときは防大で過ごした4年間を是非とも思い出し、乗り越えていって欲しいと思います。

それでも乗り越えるのが難しい時は、野球部の仲間を頼ってください。私を含め、皆さんの先輩方は全国各地の部隊や機関で勤務していますので、必ずや力になってくれるはずです。

おわりに

野球がチームプレーで成り立つ競技であるように、自衛隊の活動も様々な階級・職種の人たちによるチームプレーで成り立っています。66期生の皆さんとどこかで一緒にチームプレーできることを楽しみにしています。今後は同じ「防大硬式野球部OB」として、現役学生を応援していきましょう。

最後に67期生以下の現役学生の皆さん、野球にどっぷりのめり込めるのは学生である今だけです。念願の「1部昇格」に向け、悔いのないよう精一杯頑張ってください。私もOBの1人として66期生の皆さんとともに応援しています。

『野球から学び、自衛隊勤務に通ずること』

評議員 大東 太陽 54期（陸）

第66期の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この度、球友に投稿する機会をいただきましたので、餞の言葉と言えるほどのものではありませんが、「私が野球を通して学び、今も役に立っていること」について紹介したいと思います。

1 No. 1になるために

- ① No. 1になりたいと思う
- ② No. 1の実力を知る
- ③ 自分の実力を知る
- ④ No. 1と自分の差を埋める計画を作る
- ⑤ 実行する

これは、高校時代の野球部監督から頂いた言葉です。当時は、なるほどなと思いつつも、ただ純粋に甲子園出場を夢見て我武者羅に日々の練習に取り組んでいるだけで、この言葉の本質的な部分を理解していなかったと思います。

この言葉の本質に触れたのは、防大硬式野球部に入部してからです。防大では、学生が主体となってチームを運営していたことから、自ずとこの言葉を実践するようになった気がします。そして主将を任せられたときに、この「No. 1になるために」の本質に向かい、真剣に実践したと記憶しています。

1部校と防大の差を理解し、どうすれば1部へ上がるかを考え、それに必要な練習メニュー、練習試合の予定、公式戦を含めた試合のオーダー等、すべて1部昇格に繋がるよう、「横国大に、鶴見大に勝つために！」を常に考えて、学生生活のほぼ全ての時間と労力を校友会に注いでいました。

1部昇格はかなわなかつたものの、「No. 1になるために」過ごした4年間は、幹部自衛官に必要なことを実践していたなど、12年経った今、感じています。

2 自衛隊勤務に通ずる「No. 1になるために」

まず①は原点であり、心のエネルギーになります。初級幹部時の最初の頃は、日々の業務で「何をやればいいのか分からない」「どうやればいいのか分からない」という目先のことに精一杯になりがちですが、なりたい自分を持つ、目標を明確に持ておくことで、自分は何のためにやっているのかを見失うことはありません。また思いの強さは心のエネルギー量に比例します。イキイキと仕事をしている人は、やはり①が明確で強いものです。

次の②～④は、幕僚活動そのものです。（卒業生諸官はこれから数年、教育や部隊勤務で嫌というほど叩き込まれると思います。）これから皆さんのが飛び込む部隊勤務では、「No. 1になるため』が『任務を完遂するため』に変わるだけ。自

分に付与された任務の達成に必要なことを深く分析し、やるべきことを具体化することが重要だということです。

最後に⑤ですが、個人的にはこれが一番重要だと感じます。考えたことを実行に移す「行動力」、最後までやり遂げる「意志力」は、いつになっても、どんな役職に就いても大事です。

部隊では、諸官全員が主将になると考えてください。特に卒業後の約10年間は、隊員との距離も近く、若手幹部としてベテラン陸曹を含めて引っ張っていかなければなりません。野球部で培った「行動力」、「意志力」をもって、直面する困難に臆することなく立ち向かってください。

3 野球部のために

卒業生諸官はこれからOB会の一員として後輩の活動を支える立場になります。OB会として、「No. 1になるために」を『防大硬式野球部を1部へ昇格させるために』として考えてみたいと思います。

- ① 1部に昇格させたいと思う
- ② 1部校の実力（個々の能力、練習内容、支援態勢など）を知る
- ③ 防大硬式野球部の現状（個々の能力、制約事項、設備など）を知る
- ④ OB会（員）としてできることは何かを明らかにし、計画を立てる
- ⑤ 実行する

卒業生諸君は最近までプレーしていたからこそ分かる1部校との差、防大野球部の問題点・練習の制約事項等があると思います。是非とも、OB会の先輩を見つけて、意見をあげてください。

一方、部隊配置されて間もない頃はOB会の活動に加わる余裕がないかもしれません、できることはあります。その最たるもののが、OB会費納入による協力です。現役時代は気に留めていなかったかもしれません、多くの先輩方が金銭面でも後輩のためにと協力しています。なかなか若い世代の納入率が低い現状があるため、卒業生諸官もOB会費の協力をお願いします。

4 終わりに

花立て築いた絆はいつまでも色褪せることなく、期別の近い先輩・後輩はもとより、大先輩とも野球の話で繋がることができます。これからの中衛官人生で行き詰った時は、花立ての絆を頼ってください。（私もよく頼り、助けられています。）

取り止めのない内容であったかもしれません、卒業生の皆さんの中での活躍と、硬式野球部の悲願達成を祈念いたします。

私も、微力ながら引き続きOB会の一員として後輩のために協力させていただきます。

日日是好日

牧田 哲平 61期（海）



今回、球友に寄稿する機会を得られたことを嬉しく思うとともに、関係者の方々に深く感謝いたします。

まず、簡単に現在の私の勤務状況に関して説明いたします。私は横須賀を母港とする護衛艦「たかなみ」の応急長として勤務しております。船乗りの宿命として毎年の転勤は避けられず、1年目の広島県呉、2年目の長崎県佐世保での勤務を経て、現在は青春を過ごした小原台の近く、横須賀勤務となりました。日々の訓練や実任務の中で、防大野球部で培った何かが役立っている証拠なのでしょうか、仕事で深く悩み込んでしまうことや、人間関係で大きな失敗をすることもなく、心の平静を保って勤務しています。休日には横須賀転勤を機に入部したクラブチームの一員として、職務の傍ら、大学以来の野球も楽しめています。30歳を超えた今となっても野球ができるというのは、ひとえに学生時代に真剣に野球に打ち込んだことによるものであると感じています。

次に、学生野球を通して得ることができる経験に関して触れたいと思います。野球には他のスポーツと同じ様に残酷な面が多くあります。それは、試合の結果が練習量や費やした資源の量に見合わない、ということです。強者と思われていたチームが弱者に苦汁を舐めさせられることが珍しくなく、試合中のほんの一瞬の気の迷いや僅かな誤差、急な自然環境の変化のなかで起こる「まさか」で全てがひっくり返ってしまうことがあります。このような「まさか」を起こして勝利を呼び込む快感が、麻薬の如く癖になる一方で、「まさか」の失敗で勝利を逃した際のショックとトラウマのような後悔が、多くの人に残ることになります。しかし、このようなスポーツにおける「まさか」は人生の岐路における「まさか」に比べて深刻ではなく、スポーツである以上は10代の恋愛のように、いくらでも取り返しがつくものであります。しかし、その際の興奮とショックは人生の中でも特に貴重な経験となり、成功体験と失敗体験のいずれもが人生を前向きに考える際に役に立ちます。現役時代、防大硬式野球部は強者から「まさか」を起こすことで勝利を奪い取ることを楽しむチームであったと記憶しています。後輩たちも同じように多くの「まさか」を巻き起こし、学生野球から多くの快感を得る経験ができているのならば嬉しいです。

最後に、後輩たちに贈る言葉として『「一期一会」の精神を大切に』ということを残したいと思います。防大61期の野球部は、当初17名が入部しました。同期の中で現役自衛官は8名で、2名は退校し、1名が任官せず、4名が任官後退官、そして令和2年に1名、令和3年に1名と、2名の同期を私たちは亡くしました。個人的な死生観に関してここでは触れません。当然その2名と再会する事は叶いませんが、彼らを失ってまず私の頭の中を巡ったのは、「彼らと交わした最後の言葉は何だったか」ということです。私には思い出せませんでした。「じゃあ、またな。」、

「達者でな。」語彙に乏しい私はこの辺の言葉で彼らと最後に別れたのだと思いますが、当然、次にいつか会うことを見越しての言葉であったと思います。子を失った親の様に彼らを毎日の様に懐古することはありませんが、転勤等で人々との別れが起こる節目の際には、彼らを思い出します。後輩たちには、いずれ訪れる仲間との暫しの別れの際に、より良い言葉を交わして欲しいと思います。また、いつか同期と再開した際は、その機会を喜べるように今からでも良い関係を築いてから、防大を巣立っていくことを期待します。

4. 66期挨拶

主将

齊藤 理希



- 1. 外野手
- 2. 航空要員
- 3. 公共政策学科
- 4. 県立浦和高校
- 5. 右投左打

皆様お久しぶりです。野球部を引退してから早3か月が立とうとしていると思うと、なんだか不思議な気持ちです。4年間お世話になった硬式野球部のさらなる発展を願い、メッセージを残したいと思います。

ある練習会で、防大よりもっとレベルの高い場所でプレーしてきた選手と練習する機会がありました。メニューの中にフリーバッティングがあり、そこで外野守備につきました。打者がスイングすると、弾き返された打球が次々に空に消えていきました。野球を始めた時から外野一本でやってきた私が、フライを見失うほどです。思い返してみると、試合でフライが高いなど感じたのは高校時代に対戦した現早稲田大学の蛭間君と新人戦で対戦した神大の選手くらいです。そのレベルの打球を飛ばす選手がごろごろいました。何が言いたいかというと、今の環境では高いレベルの野球に触れる機会はほぼありません。高いレベルを知らないと明確な理想も持ちづらく、結果的に成長につながりません。決して練習試合の勝利や2部リーグのAクラスで満足しないこと。目指すべきところはもっと上にあるはずです。

それでは、どうやったらもっと野球がうまくなるのか。これは現役中何度も考えた問い合わせですが、いま出せる答えとしては「もっと野球を学ぶこと」です。野球を学ぶとは、身体を使って練習をするのはもちろん、YouTubeやカメラをつかっての研究、ウエイト、グランド整備などもそうです。簡単に言えば野球に携わる時間を長くするということです。防大で校友会の時間として割かれているのは微々たるものですが、防大生もプロ野球選手も与えられているのは1日24時間で同じです。野球のために使える時間は、探してみると意外とあります。その全てが成長につながるとは言えませんが、やってみないと気付くことすらできません。まずはできることを探してみてください。

最後になりましたが、顧問の方々、OB会はじめ防大硬式野球部に携わっていただいた全ての方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました。今後とも指導、応援のほど宜しくお願ひ致します。

副主将

加藤 猛



- 1. 外野手
- 2. 陸上要員
- 3. 機械工学科
- 4. 山形南高校
- 5. 右投右打

15年間の野球人生を終えて、分かった真理は次の文章である。

「野球とは躰である。」(引用：横井球児園エン)

私自身小中高代とぼんやりと野球を続けていた。高校は、その高校（県内有数の古豪進学校）の野球部が花形だったから、大学では、高校の監督に大学で野球をするようにとそそのかされていたから続けた。この学校では2年生の秋から試合に出させてもらっていたが、原動力としてはヒットを打ちたい、活躍したいのような極めて利己的かつ未熟なものであった。また、同期には斎藤理希というスーパースラッガーが据わっており、彼に負けたくないという思いでしゃにむに努力を積んだということも少なからずあった。今考えればよく野球を続けてこれたとはなはだ疑問である。

しかし、そんな自分を変えてくれたのが政権の副主将という立場だ。これほどまでに野球を哲学的に考え、悩み、苦しんだことはいまだかつてなかった。消灯後に斎藤と中隊週番室で夜通し語り合ったことは今でも忘れない。結論、野球を通じて我々が目指すものは人間的な成長であったのだ。ベースボールのような上手ければ許されるようなものではなく、野球は礼儀、思いやり、人間関係、技術を学ぶ躰だった。この瞬間全身に稻妻が走り、今までの指導者が走馬灯のように思い出された。大橋監督が口酸っぱく言っていたことの本質に気づき、今までとは全く違うものを原動力にして4年生のシーズンを全うできた。また、春、秋と共にAクラスを達成したことは66期政権の取り組みの努力を裏付けた。春シーズン終了後、嬉しさのあまりに男泣きしたことはここだけの話にしておく。

ここで後輩諸君に伝えたいことは、プレー以外のところで大事なことがたくさん埋まっているということ。具体的に言うことはしないので自分自身で考えてほしい。後輩には厳しく接して、不服そうな目、顔をさせたがあつたが全く後悔はしていない。

これに気づけたことが野球人生最大の収穫であり、自身の成長であった。野球を続けてきて本当に良かった。
ありがとう野球

内主務兼安全係

山田 圭花



- 1. 外野手
- 2. 陸上要員
- 3. 機械システム工学科
- 4. 愛知向陽高校
- 5. 左投左打

当時唯一の女子部員、65期の小澤さんに憧れて、硬式野球部に入部しました。野球を心から楽しむ姿、内野ノックの速い打球にも果敢に挑む小澤さんの姿を見て、小中としてきた大好きな野球をもう一度したいという思いがこみ上げてきました。

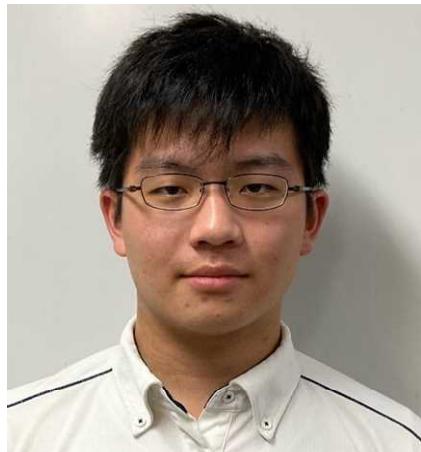
しかし、そんなに甘いものではありませんでした。瞬時に落下点がわからない、打球に怯えてゴロ捕球すらままならない、アップのトスバッティングは空振りの方が多い。上級生や同期、コーチは本当に親切にアドバイスしてくれましたが、なかなか上達しない自分が悔しくて、浴場のシャワー音でごまかしながら泣く日も少なくありませんでした。肘・肩を徐々に痛め、足は疲労骨折し、心も折れそうな時に、小澤さんが女子軟式野球の合同練習を企画してくださいました。上智大学との合同練習があまりに楽しくて、野球の魅力に改めて気づくことができました。当時、女子野球チームの件で関東大学野球連盟に掛け合ってくださった横井部長、竇嶋前監督、心の支えとなってくれた加藤助監督には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

今となっては、本当に多くを学ばせていただき、成長の連続だったと感じています。かけがえのない仲間たちと巡り合えたことを、硬式野球部員として誇りに思います。後輩の皆には、野球を心から楽しんでほしいと願っています。人生に辛いことは付き物ですが、それも考え方次第でステップアップする材料となることでしょう。

最後に、廣瀬、大野。女子野球の合同練習の機会を作れなくてごめんね。野球だけに限らず、目標を持ち続けてください。今後の活躍を温かく見守るとともに、心から応援しています。

外主務

滝沢 一真



- 1. 主務
- 2. 陸上要員
- 3. 機械システム工学科
- 4. 津南中等教育学校
- 5. 右投右打

入部して初めて硬式ボールを触り、気付いたら実況者で野球人生を終えることとなりました。最後の試合のサヨナラヒットの時につい叫んでしまったのを既に懐かしく感じている今日この頃です。連盟のY o u T u b e チャンネルにアーカイブが残っているので、お時間がある時に視聴いただければ幸いです。

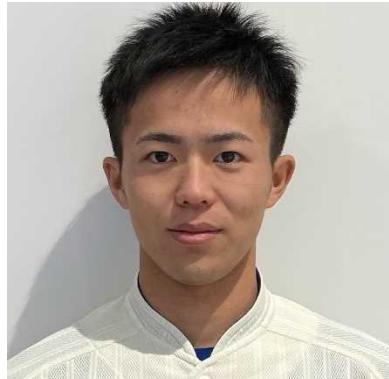
高校まで軟式だったこと、高校の最後の試合で未練が残ってしまったことが理由で硬式野球をやってみたいと思い入部しましたが、正直選手であった期間はほとんど無かった気がします。これを書いている時点でも治療中ですが、疲労骨折寸前のシングスプリントにより夏休みまでは無限に素振り、たまに寶嶋前監督とキャッチボールをしていました。中期は30観闇式に参加、じ後やっと野球ができる状況になった矢先にベースランニングで膝を捻挫したため、治療に専念すると共にサポートするため、スタッフに転向し現在に至ります。観闇式を考えると実質5ヶ月弱くらいでしょうか。

65期以降学生スタッフが私のみになり外主務を拝命しました。66期政権ではグッズ係・グラウンド係・etc…と色々なことをやったので、多くのことを学ぶことができました。勤務では多々至らぬ点があったと自覚しておりますが、最後までやり通せたのは顧問の方々のご指導及び選手のみんなの協力があったからだと思います。私の改善点を67期以降改善して、よりよいチーム運営をしてください。最後のシーズンで最初に書いたとおり実況者となった訳ですが、当然実況などやったことがなく、かといつてプロ野球や甲子園と同じことは設備等の問題でできないため、試行錯誤しながらの実況でした。試合状況を垂れ流すだけの実況となってしまいましたが、少しでも現地の熱をお伝えできていれば幸いです。

最後となりますが、防大硬式野球部で関わった全ての方々に感謝の意を表し、ご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

投手リーダー

浦川 徳紫



- 1. 投手
- 2. 陸上要員
- 3. 機械システム工学科
- 4. 八女高校
- 5. 左投左打

私が4年間野球を続けることが出来たのは部長、顧問、O B会の皆様を始め、野球部みんなのおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。また、球友に投稿させて頂く機会を頂き、誠にありがとうございます。

6 6期投手リーダー、首脳として1年間チームの運営に携わることができて本当に良かったと思います。運営を通して、組織を動かすことの難しさや最上級生としての自覚と責任を学ぶことができました。この教訓は、幹部自衛官になっての糧となると思います。投手としては、2学年の秋季リーグ戦からエースとして投げさせて頂きました。通算12勝9敗と納得はしていますが満足はしていないといったところです。2、3学年の時は内野手と捕手に同学年がおらず試合に勝った嬉しさや負けた悔しさを真に分かち合うことができませんでしたが、4学年の時は同期の伊良皆君がチームのキャッチャー不足問題もあり、キャッチャーに転向してくれて初めて同学年でバッテリーを組むことができたのは嬉しかったです。そのおかげもあり、その年の春季リーグ戦で最優秀投手賞と敢闘賞を取ることができました。

また、前監督の修造さん（竇嶋監督）や加藤助監督には精神面のケアをして頂きました。特に加藤助監督には野球以外の面でもお世話になりました。4年間で一番成長したのは精神面だと思います。

最後に可能性の話をして終わりたいと思います。私は高校3年間、春・夏・秋の公式戦で登板したことはありません。出場したのは2年生の秋の大会で代走で1回だけです。高校野球は土日に2試合ずつ計4試合行いますが、1試合と2試合目6、7回までバックネット裏で走って、8、9回だけ投げていました。3時間くらい走った後登板すると足がつて思うような投球が出来ません。このような週末を引退するまで続けていました。今思えば、なぜそこまで頑張れたのだろうと思います。しかし、一度も野球を辞めようと思ったことはありませんでした。なぜなら、野球部が好きだったし何よりも野球が大好きだったからです。野球にはそれだけ特別な力があります。野球の経験が浅かったり、今試合に出られていなかったりすることもあると思いますが、なぜ自分は数ある校友会の中から硬式野球部を選んだのか、何のために花立グラウンドで野球をしているのか、今一度考えてみて下さい。答えは花立グラウンドにあります。

防衛大学校硬式野球部の益々のご発展をお祈り申し上げます。

会計兼4大隊責任者

吉田 和磨



- 1. 内野手
- 2. 陸上要員
- 3. 応用物理学科
- 4. 常総学院高校
- 5. 右投右打

私は小、中までしか野球をやっておらず2年も浪人して防大に入校したため、まさか自分が硬式野球部に入るとは思ってもいませんでした。高校まで野球をやっていた人でさらに大学でも野球をやりたいと思う人が入る部活だと思っていたからです。いろんな部活を見て回りやっぱり野球がいいなと思いつつも硬式は自分にとってレベルが高いと感じていたので準硬式野球部に入ろうと思っていました。しかし当時の部屋の4年生に準硬式は認めないと言われ腹をくくり硬式野球部に入部を決めました。

しかし、現実はそんなに甘くありませんでした。下手な自分とは対照的に周りの同期はどんどん上手くなっています。学年が上がるにつれて新しい下級生も次々と入ります。自分よりはるかに上手い下級生をみて何だか自分が情けなくなり、何のために野球をやっているのかわからなくなりました。それでも部活を続け4学年になると見える景色が大きく変わりました。チーム全体のことを考えるようになり、自分にできることはプレイ以外にもあるということに気づいたからです。私がしていたことは部費の管理、バスの手配、予算審議、試合の支援等グランドの外での活動が主でした。自分が下級生の時は何となくしか知らなかった仕事の一つ一つが極めて重要であり、自分たちが当たり前のようにできる野球が実は当たり前のものではなかったのです。自分たちの知らないところで働いてる人たちのおかげで野球ができていたのであり、今となっては本当に感謝しています。

最後に、後輩の皆さんには人との繋がりを大切にしてほしいです。野球部で築いた人間関係が学生舎、学科、訓練、今後の自衛官人生で必ずやあなたの役に立ちます。皆さんの今後の活躍に期待しています。今までありがとうございました。

OB係

井上 拓也



- 1. 投手
- 2. 陸上要員
- 3. 国際関係学科
- 4. 県立浦和高校
- 5. 右投右打

私は、一人のプレイヤーとして、一人の投手としてこの硬式野球部に貢献することはできませんでした。しかし、防大硬式野球部での活動を通じて感じたことがあるので、この場で話させていただきます。

それは、野球好きでよかったということです。私は中学生の時に肘を骨折して以来、思い切って腕を振ることができなくなり、比較的肘への負担が少ないアンダースローにフォームを変えることで野球を続けていました。思いっきり投げ込めないし、かといって投手以外の適性はまるでない。そうした現実から野球への熱が冷めたように感じ、一度離れることとなりました。すると、離れるや否やユニフォームを着て野球をすることがどれだけ幸せだったかということに気づかされたのです。いつかまたどんな形でもいいから野球をしたい。そう思っていた私を野球の世界に引き戻してくれたのが防大硬式野球部でした。花立という素晴らしい環境でマウンドに立ち、ストライクを一つ取れば、アウトを一つ取れば盛り上げてくれる仲間達と共に白球を追う日々は本当に幸せでしたし、野球好きでよかったなと思いました。

また、私は最高学年時にOB係を務めさせていただきました。昨年の『球友』の作成にあたり際、いかにも多くのOBの方々がこの部活を支えてくださっているのかということを痛感させられました。この場で感謝の意を表したいと思います。

最後に、後輩へ。上手い下手に関わらず野球が好きだから硬式野球部に入ったことだと思います。ここで得られる様々な体験、野球から得られる幸せを引退までに味わい尽くしてほしい。一防大生として、学業、訓練、学生舎でも得られるもの全てを得てやるくらいの気持ちで取り組んだほうが有意義というか、だらけて過ごすより単純に面白いと思います。私とよく関わる者ならご存知であろう私の座右の銘を後輩へのメッセージとして挨拶を締めようと思います。

『奮い立て奮起しろ。刻め、奮起史を。』

1 大隊責任者

永野 摩紘



- 1. 投手
- 2. 陸上要員
- 3. 機械システム工学科
- 4. 熊本国府高校
- 5. 右投右打

まず、O B会・顧問陣の方々には硬式野球部の活動を手厚くサポートして頂き、感謝しかありません。ありがとうございました。

毎年もらっていた球友をとうとう自分が書く立場になってしまったと思うと感慨深いです。
硬式野球部に入部した遠い昔に思いを巡らせるに、苦い思い出しかありませんが少し振り返りたいと思います。

入部して間もない永野君は「4年は神」と言われている防大で4年生ピッチャーとキャッチボールをするようになりました。そこで変に焦りと不安を感じるようになり、気付けばイップスになっていました。すべてが初めての感覚で、自分が狙ったところに投げられなくなったのを覚えています。いつか治るだろうと無理矢理、楽観的に見ていましたがなかなか治ることはなく、いつしか野球が楽しくなくなりました。もう野球を辞めようかと本気で思っていた時期もありましたが、そんな状態の私に「野球が楽しい、野球をしたい」と思わせてくれたのが6 6期のピッチャー陣でした。永野君は決して試合に出れるような選手ではなかったですが、彼らは1人の選手として真剣に向き合ってくれ、4年間ずっと支えてくれました。ここまで腐らずに野球を続けてこられたのは間違いなく彼らのおかげです。この場を借りてお礼を言います。ありがとうございます。

最後に6 7期以下の後輩たちへ。

デッドボール当たった人はごめんなさい。いつでも当たりに来てください。何球でも当てます。

2大隊責任者 伊良皆 盛琳



- 1. 捕手
- 2. 陸上要員
- 3. 機能材料工学科
- 4. 沖縄向陽高校
- 5. 右投左打

転部。防大ではマイナスなイメージがあります。もちろん、一般社会においても何かを途中で辞めるということは、あまりプラスには感じられないかもしれません。しかし、当時の私にはそのような迷いなどなく、また野球がしたい、大学野球がしたい、勝利に貢献したい、この思いで頭がいっぱいでした。約3か月の手続きを経て、また当時の監督や野球部の先輩・同期の力添えもあり、高3以来の野球人生が再開しました。前述した思いを胸に投手として入部した私ですが、なかなか思うように結果はついてこず、3年生の秋までベンチ入りすら果たせず、受け入れてくれたチームにはもちろん、熱い思いがあつて辞めた前の部活の同期にも申し訳なさを感じ、なにより自分の無力を痛感しました。そんな中、66期政権が発足し、多少経験があったこととチーム事情を鑑み、捕手への転向を決意しました。それからは、今までやってこなかった打撃練習、守備練習に取り組み、春リーグ・秋リーグを迎えたが、失点に絡み、打率も2割未満で終わった春リーグは、浦川を中心とした投手陣と斎藤・加藤を軸に私以外の選手の活躍があり、準優勝で終わりました。それでも私は確かな手ごたえを感じ、なにより野球で勝つ楽しさを再確認でき、秋リーグでは厳しいスタートにはなったものの最後まで粘り強い野球でAクラスに残り、個人でも春リーグを上回った成績を残すことができました。そしてなにより野球人生で唯一笑って引退できたことが今でも心に残っています。

このような経験ができたのも、監督や部長、コーチ、OB会の方々の日頃からのご支援によるものだと痛感していると同時に感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

また、1年間それぞれの役割で政権運営を担ってきた66期のみんな、一緒に練習してきた後輩達にも感謝しています。ありがとうございます。

最後に、強いチームを何世代にもわたって作り続けるには、チームの基盤が確立しているか否かだと思います。学生野球は特に学年ごとで様々な役割があり、上級生になればなるほど苦労は増えますが、その役割を理解し実践できればどんどん強いチームに向かっていくと思います。今後のご活躍を期待しています！

3大隊責任者

菅崎 正浩



- 1. 外野手
- 2. 海上要員
- 3. 情報工学科
- 4. 岡山城東高校
- 5. 右投右打

小学3年から始めた野球でしたが気づけば13年以上も続けていました。長いようであつという間の野球人生でした。元々、高校3年間ベンチ入りが叶わなかつたこともあり、大学では得意を生かしたトライアスロンでもしようかと思っていました。しかし、結果として防衛大学校に入校し硬式野球部に入部しました。防大での野球生活を振り返ると「なんだかんだ楽しかったなあ」という感じです。66期は小さなことも含めると本当に多くのことをこの4年間で経験しました。良いことも悪いものもありましたが、あと数年も経てば良い思い出になってくれると思います。

自分自身、選手としては特に成功したかというとそんなことはありません。高校では投手でしたが防大では外野手に挑戦し、最初は目も当てられない状況でしたが最終的には何とか形になったような気はしています。選手としてはいま一つでしたが、3星ランナーコーチとして自分の野球人生における経験値の全てをぶつけた判断を最後の最後にできたことは一生の誇りです。後輩達には、真面目にやっていれば最後にはそんな素晴らしい経験ができる信じて最後まで自分の役割にひたむきに向き合ってほしいと思います。

卒業後の不安が消えることはありませんが、今後も66期野球部の同期と切磋琢磨し、苦労を分かち合いながら自衛官人生を頑張っていこうと思います。

野田 航生



- 1. 投手
- 2. 海上要員
- 3. 機械システム工学科
- 4. 八戸高校
- 5. 右投右打

卒業するにあたり、今までご支援いただきました監督をはじめとする顧問の方々、O Bの方々、ついてきてくれた後輩たち、辛いときにも励まし支えてくれた同期に感謝いたします。

この防衛大学校での硬式野球部生活は今まで最も人との繋がりの重要性を感じさせられました。防衛大学校の校友会は主将、副将等のほかに、内外主務、安全、会計及び大隊責任者等、一般大学の部活動に比べ自主性が非常に重視されています。また、このように役職の多さからもわかるように、同期間だけではなく先輩、後輩との関係を超えて、その繋がりによって各人が自らの責任を果たすことによって円滑な運営を図らなければならないという特色があります。そして防大野球部において私は、この特色の重要性が現れている言葉に出会いました。

「一隅を照らせ。」

この言葉は、私が1学年時の新チーム結成時に寶嶋賢二前監督が打ち立てたチームに対する要望事項でした。この言葉の意味は「各人が組織において自らの任務・地位・役割に応じた立場を守り、任務を遂行せよ。」というものです。組織において、個人ができるほんの小さな一挙手一投足が仲間を支えることとなり、組織をより良いものへと変化させる可能性があります。その小さな行動は、役に立たないときもあるとは思いますが決して無駄にはなりません。ためらわずに一步踏み出さるか出せないかで、その結果には雲泥の差が生じます。

また、この言葉は自衛隊生活においても非常に重要なくると思います。「一隅を照らせ。」という言葉は、指揮官としてリーダーシップを發揮すること、部下としてフォロワーシップを発揮することに繋がり、自衛隊の仲間や国民の皆様のために行動ができる人間へと私たちを成長させてくれるはずです。そのために、まず後輩の皆さんには、残りの防大野球部での生活を通して、先輩後輩及び同期を問わず、仲間のために行動し、野球に打ちこむことで人間として成長してください。そしてまたいつか部隊で会いましょう。

秋元 風悟



- 1. 内野手
- 2. 陸上要員
- 3. 通信工学科
- 4. 八戸東高校
- 5. 右投右打

私は、硬式野球部員の中で最も遅い3学年の11月に転部しました。それまでは、高校野球で燃え尽きてしまい、だらだらと惰性で野球を続けていました。しかし、3学年の4月、偶然にも前主将阿部学生、そして伊良皆学生と野球をする機会があり、徐々に野球への想いが再燃し、迎えた、8、9月、準硬式野球部でリーグ優勝を逃し、非常に悔しいと思ったと同時に、もっと高いレベルで、そして、リーグ優勝したいという強い想いが自分の中で芽生えました。そしてその想いを斎藤学生に伝えたところ、快く迎え入れてくれました。これが私の硬式野球部員としての生活の始まりでした。当初は、右も左も分からず、また様々な問題があり、苦しむことが多く、1年間の中でやめようと思ったときが何度もありました。しかし、そのたびに6期の学生が助けてくれました。何度も部屋へ行って何度も話し合いましたね。それが硬式野球部でも一番の思い出であり、本当に感謝しています。最終的には、リーグ優勝は果たせませんでしたが、後輩が優勝するための前座ぐらいにはなったかなと思います。

最後に後輩に向けて、2つ伝えたいと思います。

1つ目は、何か問題が生じたときにどうするかということです。これは、プレーだけではなく運営、上下関係等々です。今後皆さんには様々な多くの壁が立ちはだかることが予想されます。ただ、それを避けて通ったり、乗り越えるようなことはやめてください。男も女も黙って正面突破です。壁をぶち壊して前へ進んでいってください。真っ向からぶつかるからこそ学び、見えてくるものがあります。結局それが一番近道であると私は信じています。

2つ目は、滅多に起こらないことに対して練習するのではなく、大学野球のレベルでとらなくてはいけないアウトをきちんと取れるように練習することです。アウトにしなくてはならないプレーとアウトを取れなくても仕方ないというプレーの精査し、その中で自分の課題を見いだしてください。そして、その課題に対して客観的かつ論理的に分析していくれば、本当に必要な練習が見えてくると思います。そして、最後に部長、監督、加藤さん、たくさん迷惑かけてしまい、申し訳ありませんでした。卒業できるように頑張ります。

志筑　由隆



- 1. 投手
- 2. 航空要員
- 3. 航空宇宙工学科
- 4. 神戸高校
- 5. 右投左打

私は小学生のころから野球を始めました。小中高と長年、自分の生活の中心であった野球というスポーツから離れることはできず、この防衛大学校でも気が付くと硬式野球部に入部していました。そこから4年間選手として最後まで全力で野球に打ち込むことができたのは、指導者、OBの方々の多大なる支援はもちろん、先輩、後輩そして同期と本当に多くの人々のおかげであり本当に感謝しかありません。このような環境で野球に打ち込めたことは私の人生において大きな財産です。特に同期のみんなは気分屋でよく迷惑をかける私にも明るく接してくれ、66期の野球部の一員で本当に良かったと感じています。

1学年から自分自身の野球生活を今、振り返ればもっと努力できる部分があったんじやないかと思う部分も多々あり、悔いが残る部分も多いです。現役を引退して長年生活の一部分であった野球がなくなるとその大切さに気付くものだなとしみじみ感じています。しかしこの野球人生を振り返って間違いないことは、最高に楽しかったという事です。現在現役の後輩たちは、残りの野球生活全力で打ち込んで楽しんでもらいたいと思います。成績や結果も重要ですがやはり野球楽しんでなんばだと思うので、最後の1試合まで楽しみ尽くしてください。

5. 67期主将挨拶

67期主将

原 裕典



- 1. 内野手
- 2. 陸上要員
- 3. 公共政策学科
- 4. 一条高校
- 5. 左投左打

66期の皆様、お久しぶりです。67期主将を務める原裕典です。

10月23日に秋のリーグ戦が終わり、皆様が引退され、67期以下だけでやる野球は何か物足りなく感じます。背中で見せる斎藤さんと熱い言葉でチームを奮い立たす加藤さんを筆頭に、皆様の姿は、私達が理想とすべきものばかりでした。少しでも長く一緒に野球をやり、もっと多くのものを吸収しておくべきだったと今では後悔しています。

新チーム結成後、練習では、ミスが続いてしまったり、雰囲気そのものが良くなかったりと課題はたくさんあります。しかし、皆様が残した野球に対する真摯な姿勢は、日頃より熱く指導してくださる大橋監督のもと、67期政権になっても継承しています。初めは、野球にやる気を見出せていなかった学生達も、試合経験を積むことで、自分の短所と長所に気付き、改善そして向上心を持って取り組んでいます。未熟なチームですが、春のリーグ戦では、少しでも上の順位で終えられるようチーム一丸となって、練習に励んでいます。新型コロナウィルスの影響で、満足に練習できない時期もありましたが、66期の方々と過ごした日々はかけがえのない時間でした。それぞれの道に進まれても、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、日頃より監督、総監督、部長をはじめとする顧問の方々、またOB会に所属されている方々から多大なるご支援いただき誠にありがとうございます。今後とも、防衛大学校硬式野球部をよろしくお願ひ致します。

6. 顧問名簿

令和4年2月現在

役 職	氏 名	所属等
部 長	横井 嘉文	機械工学科：准教授：横浜国立大硬式野球部O B
副部長	渡邊 宏太郎	情報工学科：教授
総監督	道本 光一郎	2 5期：元1等空佐：O B
監 督	大橋 健人	5 8期：1等陸尉：第312小隊指導教官
助監督	加藤 俊介	2等陸曹：第31普通科連隊勤務（武山）
顧 問	松原 隆	情報工学科：准教授
顧 問	河田 喜嗣	4 1期：1等空佐：学生課長
顧 問	秋山 智史	5 2期：3等陸佐：1大隊付指導教官
顧 問	杉本 雄一	5 3期：1等空尉：訓練課航空企画係
顧 問	浪岡 匠史	1等空曹：防衛学事務室

7. 部員紹介

【67期】



原 裕典

- 1. 内野手
- 2. 陸上要員
- 3. 公共政策学科
- 4. 一条高校



幡谷 寛朗

- 1. 投手
- 2. 海上要員
- 3. 公共政策学科
- 4. 水戸第一高校



井口 遼平

- 1. 外野手
- 2. 陸上要員
- 3. 地球海洋学科
- 4. 和歌山向陽高校



中村 悠貴

- 1. 外野手
- 2. 陸上要員
- 3. 情報工学科
- 4. 佐賀西高校

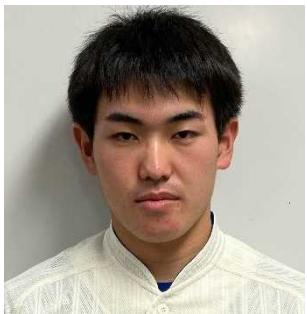


奥田 裕希

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 電気電子工学科
4. 星陵高校

加古 達也

1. 内野手
2. 航空要員
3. 航空宇宙工学科
4. 小松高校



廣瀬 智那

1. 外野手
2. 航空要員
3. 情報工学科
4. 鳴友学園女子高校

佐治 晓

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 地球海洋学科
4. 栄東高校



松本 颯太朗

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 情報工学科
4. 愛光高校

和田 康希

1. 外野手
2. 航空要員
3. 電気電子工学科
4. 嘉穂高校

【68期】

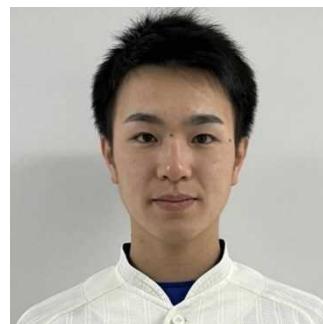


益田 武

1. 投手
2. 海上要員
3. 航空宇宙工学科
4. 宇和島東高校

山川 樹

1. 外野手
2. 航空要員
3. 人間文化学科
4. 北陸高校



伊賀 大起

1. 内野手
2. 陸上要員
3. 公共政策学科
4. 瀬戸高校

大野 瑞樹

1. 内野手
2. 海上要員
3. 地球海洋学科
4. 柏陽高校



伊波 蒼野

- 1. 外野手
- 2. 陸上要員
- 3. 機械システム工学科
- 4. 具志川高校

加藤 淳也

- 1. 内野手
- 2. 航空要員
- 3. 機械システム工学科
- 4. 安田学園高校



雉子牟田 修

- 1. 内野手
- 2. 海上要員
- 3. 電気電子工学科
- 4. 加治木高校

末次 飛翔

- 1. 内野手
- 2. 海上要員
- 3. 電気電子工学科
- 4. 京都高校



三浦 大介

1. 内野手
2. 海上要員
3. 人間文化学科
4. 巣鴨高校

西村 凌太朗

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 機械システム工学科
4. 東京成徳大高校



斎藤 佳志郎

1. 外野手
2. 陸上要員
3. 電気電子工学科
4. 川和高校

【69期】



小池 陸

1. 捕手
2. 共通要員
3. 人文社会学専攻
4. 都立町田高校

名和 欧太郎

1. 外野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 大宮開成高校



濱地 香士朗

1. 投手
2. 共通要員
3. 人文社会学専攻
4. 中村学園三陽高校

廣中 玲

1. 内野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 広島中等教育学校

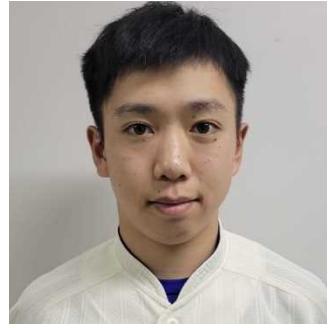


松本 蓮太郎

- 1. 内野手
- 2. 共通要員
- 3. 理工学専攻
- 4. 北野高校

永田 和也

- 1. 外野手
- 2. 共通要員
- 3. 理工学専攻
- 4. 札幌西高校



村田 久八

- 1. 捕手
- 2. 共通要員
- 3. 理工学専攻
- 4. 都立新宿高校

麻生 知里

- 1. 外野手
- 2. 共通要員
- 3. 理工学専攻
- 4. 横浜修悠館高校



市川 未旺

1. 内野手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 徳島城北高校

米田 竜ノ介

1. 投手
2. 共通要員
3. 理工学専攻
4. 岡山城東高校

8. 年間成績

【2021年 春季リーグ】

	国大	防大	市大	芸大	田大	勝	負	勝率	順位
横浜国立大学		●○	○○	○○	○○	7	1	0.875	優勝
防衛大学校	○●		○●	○○	○○	6	2	0.750	2位
横浜市立大学	●●	●○		○○	○○	5	3	0.625	3位
東京工芸大学	●●	●●	●●		○○	2	6	0.250	4位
田園調布学園大学	●●	●●	●●	●●		0	8	0.000	5位

※ 2部 1位 横浜国立大学が 1部 6位 松蔭大学との入れ替え戦に敗れ、2部残留

※ 1部 7位 鶴見大学が自動降格

2部リーグ 表彰選手

	氏名	大学名
最優秀選手賞	河上 純平	横浜国立大学
最優秀投手賞	浦川 徳紫	防衛大学校
首位打者	河上 純平	横浜国立大学
打点賞	黒木 翔太	横浜国立大学
	昆 優大	横浜国立大学
敢闘賞	浦川 徳紫	防衛大学校

21年4月17日 第一試合 横浜市立大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:48 ■試合終了時間 11:52 ■ 試合時間 2時間4分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
横浜市立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
防衛大学校	0	0	0	2	0	0	2	0	×	4

市大：遠江、小出 - 竹森

防大：浦川 - 伊良皆

<二>和田（防大）

<三>

<本>

①8 斎藤（浦和）

②9 和田（嘉穂）

→9 水上（小松）（9回表）

③7 加藤（山形南）

④D 奥田（星陵）

→D 宇土（長崎日大）（8回裏）

⑤3 原（一条）

⑥5 俵（宮崎北）

⑦6 佐治（栄東）

⑧2 伊良皆（向陽）

⑨4 加子（小松）

P 浦川（八女）

[1回表・裏]

防大先発の浦川が、2死から安打を一本許すも、無失点に抑える上々の立ち上がりです。対する市大先発遠江君も、NPBスカウトが視察する中、1奪三振を含む三者凡退で、完璧な立ち上がりを見せます。

[2回表・裏, 3回表・裏]

両先発の好投により、両チーム無得点に終わります。防大先発の浦川は走者を出すも、緩急を駆使した粘りのピッチング。市大先発の遠江君は、ストレートを軸にテンポを変化させ、走者を一人も許さない完全投球を続けます。

[4回表]

市大先頭の竹森君がレフトオーバーの二塁打で出塁しますが、無失点で切り抜けます。

[4回裏]

先頭斎藤が1塁強襲で出塁後、和田のレフトオーバーの二塁打で先制します。その後、加藤、奥田が連続三振に倒れますか、原の左前安打で和田が生還し追加点を奪います。

[5回表]

死球と池田君のセーフティバントで2死1・3塁のピンチを迎ますが、ショート佐治のファインプレーで無失点で切り抜けます。

[5回裏]

2死から、加子が一塁手後方に落とす技あり安打で出塁しますが、無失点に終わります。遠江君もこの回までに6Kを奪う好投を続け、追加点を許しません。

[6回表]

先頭竹森君の中前安打とエラーで1死1・2塁のピンチを迎ますが、浦川が変化球で空振り三振を奪い、捕手伊良皆が好送球で2塁ランナーを3塁で刺します。バッテリーのファインプレーで無失点で切り抜けます。

[6回裏・7回表]

両投手の好投で両チーム無失点に終わります。遠江君はこの時点で6回8K。

[7回裏]

四球と僕の完璧な犠牲バントからのエラーで無死満塁でチャンスを作ります。伊良皆が三振に倒れるも、加子の左前安打、主将斎藤の犠牲フライで2点を追加します。

[8回表]

先頭池田君が遊撃内野安打で出塁するも、浦川の牽制からのファースト原の好送球により、2塁でタッチアウトにします。この回無失点

[8回裏]

先頭が三振に倒れ、この日、13Kを奪ったところで遠江君から小出君に交代。小出君も1死から、この日好調の原、僕から連続三振を奪い、流れを引き寄せます。

[9回表]

最後は、死球を一つ与えるも、レフト加藤の好ポジショニングもあり、無失点で試合終了。

結果、4-0で防大が勝利しました。

防大として、例年難しい入りとなる春季リーグの初戦でしたが、雨の中、完封勝利の浦川を中心として、好投手遠江君から、数少ないチャンスをものにできた全員野球の勝利だったと思います。

21年4月18日 第一試合 防衛大学校 × 横浜市立大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:50 ■試合終了時間 12:35 ■ 試合時間 2時間45分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
横浜市立大学	2	0	0	0	0	0	2	0	×	4

防大：高谷、志筑、幡谷 - 伊良皆

市大：友野、遠江、小出 - 竹森

<二> 齊藤（防大）、小出、竹森、檜山（市大）

<三> 宇土（防大）、小出（市大）

<本>

①8 齊藤（浦和）

②9 和田（嘉穂）

③3 原（一条）

④7 加藤（山形南）

⑤D 宇土（長崎日大）

⑥6 佐治（栄東）

→6 吉田（常総学院）（7回裏途中）

⑦5 俵（宮崎北）

→PH 水戸（小松）（4回表）

→5 秋元（八戸東）（4回裏）

⑧2 伊良皆（向陽）

⑨4 加子（小松）

P 高谷（松本深志）

→志筑（神戸）（6回裏）

→幡谷（水戸第一）（7回裏途中）

[1回表]

市大先発の友野君の前に、四死球3つとエラーで1死満塁のチャンスを作りますが、宇土がダブルプレーに倒れ、無失点で初回の攻撃を終えます。

[1回裏]

表の悪い流れを断ち切りたいところでしたが、先頭井上君にエラーでの出塁を許し、1死2塁から、パスボールで1死3塁とされたところで、小出君の左中間を破る三塁打、竹森君のレフト線に落ちる2塁打で、2点の先制を許します。

[2回表・裏]

先頭佐治が中前安打で出塁し、積極果敢な走塁を見せるも3塁犠死。無失点に終わります。その裏、防大先発高谷は、初回から復調、1奪三振を含む三者凡退でチー

ムに流れを引き寄せます。

[3回表]

1死から斎藤が右前単打と思える打球を好走塁で2塁打にするも、後続が倒れ、無失点に終わります。

[3回裏]

1死から、小出君にこの日2本目の長打となるセンターオーバーの三塁打を打たれ、1死3塁のピンチを作るも、キレのある変化球を武器に三振、右飛で無失点で切り抜けます。

[4回表]

市大は投手を遠江君に交代。1死から、宇土のライトオーバーの三塁打が飛び出し、原の1塁ゴロの間に生還を試みるも憤死。2死1塁から代打水戸の執念の内野安打により、2死1・2塁のチャンスを作るも、伊良皆が三振に倒れ、無失点に終わります。

[4回裏]

1つの見逃し三振、1つの空振り三振を含む好投で流れを渡さない高谷の我慢の好投が続きます。

[5回表]

1死から、2つの四球と和田の右前安打で1死満塁のチャンスを作りますが、加藤が三振に倒れ、宇土もレフトヘライナー性の打球を運びますが、レフト井上君のファインプレーに阻止されます。

[5回裏]

1死から小出君にこの日3本目の安打を許し、四球で1死1・2塁のピンチを作りますが、センター斎藤の大飛球の好捕球、ファースト原の悪送球に対する好処理とファインプレーが続き、無失点で切り抜け、我慢の試合展開が続きます。

[6回表]

市大は投手を小出君に交代。1死から秋元が左前安打、伊良皆が中前安打で出塁し、秋元の好走塁もあり、1死1・3塁のチャンスで、難しい低めの球に対し、加子が素晴らしい反応を見せ、スクイズ成功。秋元の好走もあり、待望の1点を取ります。

[6回裏]

防大は投手を高谷から志筑に交代。テンポの良い投球と、多彩な変化球を織り交ぜ、1回無失点。リリーフの役目を果たします。

[7回表]

追加点が欲しい状況ですが、宇土の安打が出るも、2Kを奪われ、流れを掴みきれません。

[7回裏]

先頭から2三振を奪いますが、エラーと四球で2死1・2塁のピンチを作った後、檜山君のレフト線に落ちる二塁打で痛恨の2点の追加点を許します。防大は投手を志筑から幡谷に交代。快速球で三振を奪い、後続を断ちます。

[8回表]

何とかして点を取りたい防大ですが、1点が遠く、三者凡退で終わります。

[8回裏]

代打坂本君に安打を許すも、代走木村君に対し、捕手伊良皆が盗塁を刺し、無失点で切り抜けます。

[9回表]

逆転に向け、4番副主将加藤の前に走者を置くことを目指しますが、和田の中前安打、加藤の四球のみの出塁に終わり、試合終了。

結果、1-4で市大が勝利しました。

合計で13残塁とあと1本が出ず、前日の再現とはいきませんでしたが、要所要所でファースト原を中心としてファインプレーが出るなど、練習の成果が出ていると実感できる試合でした。まずは来週の田調戦に向け、全力で頑張ります。

21年4月24日 第二試合 防衛大学校 × 田園調布学園大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 12:44 ■試合終了時間 14:57 ■ 試合時間 2時間13分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	1	0	3	0	0	0	0	4
田園調布学園大学	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3

防大：浦川 - 伊良皆

田大：中村 - 丸尾

<二> 秋元（防大）

<三>

<本>

①7 加藤（山形南）

②9 和田（嘉穂）

→9 水上（小松）（9回裏）

③8 斎藤（浦和）

④D 宇土（長崎日大）

⑤3 原（一条）

⑥6 佐治（栄東）

⑦2 伊良皆（向陽）

⑧5 秋元（八戸東）

⑨4 加子（小松）

P 浦川（八女）

[1回表・2回表・3回表・4回表]

防大先発の浦川が、安打を一本許すも、無失点はもちろんのこと、6奪三振の素晴らしい立ち上がりです。また、初回には、ショート佐治のファインプレーも飛び出し、前回登板で完封勝利のエースを盛り立てます。

[1回裏・2回裏・3回裏]

初回よ2回の2イニングは田調の技巧派左腕中村君の前に完全に抑えられますが、3回にエラー及び四球、加子の遊撃内野安打で無死満塁のチャンスを作り、加藤の押し出し四球で先制点を奪います。しかし、和田、斎藤の凡フライによって追加点のチャンスを生かせません。

[4回裏]

1死から、3番樋口岬君、4番丸尾君の連打で1死1・2塁のピンチを作った後、5番松井君の右前安打の送球において連携等のミスがあり、1点を失います。悪夢は続き、捕手伊良皆の認識ミスで、内野ゴロの間に1点を失い、逆転を許します。更に、二盗の間に1点を許します。結果、この回合計で3点を許します。

[5回表]

本来の防大野球を見せたいところです。先頭秋元の三塁線を破る二塁打を皮切りに四球3つでチャンスを広げ、斎藤の犠牲フライと原の中前安打で3点を奪い、逆転に成功します。

[5回裏・6回裏・7回裏・8回裏]

エース浦川が、打線の奮起を促す気迫の投球でスコアボードに4つの0を並べます。捕手伊良皆の刺殺もあり、本来の防大野球の守備を戻しつつあります。

[6回表・7回表・8回表・9回表]

打線は、浦川の援護をすることができません。安打は0。9回表に四球と秋元の二盗によって1死2塁のチャンスを作りますが、加子が1塁飛、加藤が三振に倒れ、1点差で田調打線の最後の攻撃を迎えます。

[9回裏]

先頭樋口岬君の左前安打と四球で無死1・2塁の大ピンチを迎ますが、捕手伊良皆の汚名返上の刺殺、浦川の執念の2奪三振で試合終了。

結果、4-3で防大が勝利しました。

21年4月25日 第一試合 田園調布学園大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:20 ■試合終了時間 11:48 ■ 試合時間 2時間28分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
田園調布学園大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
防衛大学校	2	1	2	0	2	2	0	0	X	9

田大：氏神、樋口（拓）、落合 - 平山

防大：高谷、志筑、幡谷 - 伊良皆

<二> 斎藤（防大）

<三> 奥田、佐治、加藤（猛）（防大）

<本>

- ①7 加藤（山形南）
 - ②9 和田（嘉穂）
 - PH 水戸（小松）（6回裏）
 - R 水上（小松）（6回裏）
 - ③8 斎藤（浦和）
 - ④3 原（一条）
 - ⑤5 秋元（八戸東）
 - 5 俵（宮崎北）（6回表）
 - ⑥6 佐治（栄東）
 - 6 吉田（常総学院）（7回裏）
 - ⑦D 奥田（星陵）
 - PH 井口（向陽）（4回表）
 - ⑧2 伊良皆（向陽）
 - ⑨4 加子（小松）
 - P 高谷（松本深志）
 - 志筑（神戸）（8回裏）
 - 幡谷（水戸第一）（9回裏）
- [1回裏]

前日に反省を踏まえ、初回から、田調先発左腕氏神君の攻略にかかります。特筆すべきは、打撃において長いトンネルから脱出できずにいた先頭副主将加藤が、待望のシーズン初安打で出塁すると、すかさず二盗、三盗をしけけ、チャンスを広げます。和田、斎藤が連続三振に倒れそうになりますが、斎藤の三振時の振り逃げで、加藤が生還し、先制点を奪います。

その後、斎藤の二盗もあり、2死2塁で秋元の中前安打で斎藤が生還し、2点目を取ります。

[1回表・2回表・3回表・4回表]

防大先発右腕高谷は、文句なしの無安打無得点投球。4回45球4奪三振の超好投で0を並べます。

[2回裏]

防大として、鬼門である得点した次の回。流れを確かなものにしたいところで、DH奥田が自慢の筋肉と打棒を見せつけ、センターオーバーの三塁打を放ちます。パスボールで3点目を取ります。四球二つと加子の安定感の送りバントで1死1・2塁のチャンスを作りますが、和田、斎藤が凡退し、追加点を奪えません。

[3回裏]

1死から、四球と秋元の二盗、佐治のライトオーバーの三塁打、DH奥田の前打席の影響からか、左前へのポテンヒットで2点を追加します。田調は投手を樋口拓君に交代。後続を断ちます。

[4回裏]

樋口拓君の好投の前に加子、斎藤、加藤が三者凡退に倒れ、この日初の0点に終わります。

[5回表]

四死球3つで2死満塁のピンチを迎えますが、この日絶好調に高谷は、何事もなかったかのように奪三振を奪い、0点に封じます。

[5回裏]

不振にあえぐ主将斎藤の復活を予感させるライトオーバーの二塁打、好調を維持する5番原の中前安打で無死1・3塁のチャンスを作り、内野ゴロの間に3塁ランナー斎藤の好走で1点を追加、原も悪送球の間に生還し、2点を奪います。

[6回表・7回表]

2安打を打たれるも、後続を隙なく封じ、得点を与えません。

[6回裏]

1死から、副主将加藤の復活を予感させるセンターオーバーの三塁打と公式戦打率10割を維持する代打の切り札水戸の四球で1死1・3塁のチャンスを作り、主将斎藤の右前安打で1点を追加。この間に、代走水上が好走、3塁にまで到達します。原の犠牲フライで1点を追加。コールド勝ちに向け、10点目が欲しいところですが、投手交代でマウンドに上がった落合君の前に、あと1点が出ません。

[8回表]

防大は投手を高谷から志筑に交代。テンポの良い投球と、多彩な変化球を織り交ぜ、1回1安打無失点。リリーフの役目を果たします。

[7回裏・8回裏]

何とかして1点を取りたい防大ですが、落合君が安打を許しつつも、特徴あるサイドハンドの前に、粘りを見せられます。

[9回表]

防大は投手を幡谷に交代。クローザーにふさわしい威力ある速球で2Kを奪い、試合を締めました。

結果、9-0で防大が勝利しました。

初日は、絶対に落とせない1戦でしたが、薄氷の勝利となり、OBの方々をヒヤヒヤさせてしまったかと思います。二日目は、防大の持ち味が少しは出せたかと思います。主戦力の選手の打撃が、力を取り戻しつつあります。次の国大戦まで、2週間あるため、しっかりと準備をし、必ず国大に黒星をつけます。

21年5月8日 第二試合 横浜国立大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 12:35 ■試合終了時間 14:49 ■ 試合時間 2時間14分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
横浜国立大学	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
防衛大学校	0	0	3	0	0	0	0	0	×	3

国大：杉崎、君塚 - 河上

防大：浦川 - 伊良皆

<二> 斎藤（啓）、黒木（国大）

<三> 斎藤（啓）（国大）、加藤（猛）（防大）

<本>

- ①7 加藤（山形南）
- ②8 斎藤（浦和）
- ③3 原（一条）
- ④5 秋元（八戸東）
- ⑤9 和田（嘉穂）
- 9 斎藤佳（川和）（7回表）
- ⑥6 佐治（栄東）
- H 井口（向陽）（8回裏）
- 6 伊賀（瀬戸）（9回表）
- ⑦D 奥田（星陵）
- ⑧2 伊良皆（向陽）
- ⑨4 加子（小松）
- P 浦川（八女）

[1回表]

防大先発右腕浦川は、気持ちの強さが溢れすぎたのか、1奪三振も3四死球で2死満塁の大ピンチを背負います。しかし、マウンドの浦川は動じることはありません。最後は渾身の変化球で三振を奪い、初回は無失点で切り抜けます。

[1回裏]

エラーと進塁打で2死2塁のチャンスを作りますが、無得点に終わります。

[2回表]

左前安打と犠牲バントで1死2塁のピンチを背負いますが、サード秋元が強打を難なくさばき、ファースト原も懸命にバウンドが変わりやすいグラウンド状況下で懸命に打球をさばき、無失点に抑えます。

[2回裏]

死球とワイルドピッチで2死2塁のチャンスを作りますが、無得点に終わります。

[3回表]

1死ランナー無しから、名手齊藤がセンターライナーを落球、その後、牽制悪送球と右前安打、ワイルドピッチで1点を失います。2死2塁としたところで、再び打球は、センターの前に転がりますが、先ほどのミスを取り返す、好返球でホームで刺殺します。

[3回裏]

先頭9番加子がフルカウントからしぶとく転がし、内野安打で出塁します。無死1塁としたところで、副主将加藤がライトオーバーの三塁打で1点をもぎとります。無死3塁で、2番齊藤がバットを折られながらも、懸命な走りで、無死1・3塁のチャンスを作ります。ここでチャンスに強い3番原が右前安打を放ち、1点を追加します。4番秋元は三振に倒れるも、5番和田が死球でつなぎ、満塁としたところで6番佐治が四球を選び、3点目を追加します。

結果、この回打者一巡の猛攻で逆転に成功します。

[4回表]

先頭齊藤君のレフトオーバーの二塁打とフライアウトで1死2塁のチャンスで、9番守友君の痛烈なサードライナーを、サード秋元が超超ファインプレーでキャッチキャッチアウト、1点を阻止します。

[4回裏]

1死から1番加藤が三塁内野安打で出塁し、盗塁を試みるも失敗に終わります。

[5回表]

1死からエラーと4番黒木君のレフトオーバーの二塁打で1死1・3塁の大ピンチを背負いますが、痛烈なサードライナーに対するサード秋元の横っ飛びによる超超超ファインプレーで、キャッチ→ベースタッチのダブルプレーでこの回を無失点で切り抜けます。

[5回裏]

1死から4番加秋元が右前安打で出塁し、盗塁を試みるも失敗に終わります。

[6回表]

2死から、セーフティーバント決められますが、この日5個目の三振を奪い、無失点で切り抜けます。

[6回裏]

先頭6番佐治が、エラーで出塁すると、6球の牽制を受けながらも盗塁成功し、2死2塁のチャンスを作りますが、無得点に終わります。

[7回表]

先頭をエラーで出塁を許すも、後続を断ち、無失点で切り抜けます。

[7回裏]

横国は、投手を好左腕君塚に交代。牽制が得意であり、盗塁は見込めない中、四球で先頭が出塁するも、好フィールディングと2三振で、横国も流れを渡しません。

[8回表]

先頭がセカンド加子の右に強打を放ちますが、気迫の横っ飛びからの好送球で、先頭を打ち取ります。2死から、7番齊藤君のセンターオーバーの三塁打で2死3塁のピンチを背負いますが、特大のレフトフライをレフト加藤がフェンス際で捕球し、このピンチを無失点でしのぎます。

[8回裏]

フライアウト2つと三振で無失点に終わります。

[9回表]

先頭にセーフティーバントと盗塁を決められるも、凡打で1死、センターフライでタッチアップを決められるも、2死。最後は、かみしめる様に浦川がピッチャーフライをキャッチ。試合終了

結果、3-2で防大が勝利しました。

エース浦川のこの上ない投球内容に加え、野手の次々ファインプレーが飛び出し、攻撃面でも少ないチャンスをものにすることができます。

横井部長からも、『「野球」を見た』との表現でお言葉をいただき、部員としてとても自信になり、優勝に希望を残す大きな一勝になりました。

21年5月9日 第一試合 防衛大学校 × 横浜国立大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:52 ■試合終了時間 12:48 ■ 試合時間 2時間56分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
横浜国立大学	0	1	1	0	2	0	4	2	×	10

防大：高谷、志筑、幡谷 - 伊良皆

国大：吉澤、鵜飼（康）、君塚、富田 - 河上

<二> 奥田、加藤（猛）（防大）、昆、黒木、山野井（国大）

<三> 山野井（国大）

<本>

①7 加藤（山形南）

②8 斎藤（浦和）

③3 原（一条）

④5 秋元（八戸東）

⑤9 斎藤佳（川和）

⑥6 佐治（栄東）

→H 和田（嘉穂）（6回表）

→6 伊賀（瀬戸）（6回裏）

→4 雉子牟田（加治木）（8回裏途中）

⑦D 奥田（星陵）

⑧2 伊良皆（向陽）

⑨4 加子（小松）→6（8回裏途中）

P 高谷（松本深志）

→志筑（神戸）（5回裏途中）

→幡谷（水戸第一）（7回裏途中）

[1回表]

「振らない振り逃げ」で先頭斎藤が出塁、盗塁を決め、3番原が中前安打でつなぎ、1死1・3塁としたところで、4番秋元の右前安打で待望の先制点をもぎ取ります。

[1回裏]

防大先発右腕高谷は、2死から3番昆君にレフトオーバーの2塁打を許すも、無失点で切り抜けます。

[3回表・4回表]

横国は投手を鵜飼君に交代。チェンジアップに翻弄され、点を奪えません。

[3回裏]

1死から四球で走者を背負いますが、意表を突く一塁牽制によって、2死とします。しかし、2番伊藤君に左前安打、盗塁、二塁送球の乱れた間に3塁に到達され、2死3塁となります。3番昆君のタイムリー左前安打で1点を失います。さらに、4番黒木君にレフトオーバーの二塁打を許し、2死2・3塁のピンチを背負いますが、ファーストフライに打ち取り、最少失点でしのぎます。

[4回裏]

1奪三振を含む、三者凡退で流れを引き寄せます。

[5回表]

先頭8番伊良皆が左前安打で出塁しますが、相手投手の好フィールディングで、犠牲バント失敗。1死1塁としたところで、1番加藤のライト線に落ちる二塁打で1死1・3塁とし、2番齊藤のセンターフライの間にタッチアップで生還します。

[5回裏]

何としても失点を防ぎたいところでしたが、9番に右前安打、盗塁、1番山野井君に左中間への三塁打を許し、勝ち越しを許します。

ここで、防大は、投手を志筑に交代。タッチアップで一点を失うも、後続を断ち、最少失点で切り抜けます。

[6回表・裏]

両チームの投手の好投で、どちらも三者凡退で終わります。

[7回表]

1死から、四球と加藤の右前安打で2死1・2塁のチャンスを作るも、投手を好左腕君塚君に交代、無得点に終わります。

[7回裏]

1死から、2四死球とエラーで満塁のピンチが続き、途中投手を幡谷に交代しますが、結果打者一巡し、4点を失います。

[8回表]

先頭3番原が気迫のヘッドスライディングで、三塁内野安打をもぎ取り、5番齊藤佳が左前安打、初出場の雉子牟田が四球を選び、1死満塁で筋肉自慢の奥田に回るも、三振に倒れ、無得点に終わります。

[8回裏]

先頭山野井君の二塁打から始まり、満塁のチャンスを作られ、内野安打、四球、エラーが続き、結果2点を失い、突き放されます。

[9回表]

横国は、投手を富田君に交代。無得点に終わり、試合終了。

結果、2-10で横国が勝利しました。

2連勝を目指し。中盤までは接戦に持ち込めたものの、地力の差、ほころびからの修正能力、様々な表現ができますが、自分たちはまだまだと痛感した試合でした。

しかし、まだ、優勝のチャンスが残っています。今週末の試合で、工芸に2連勝。横国と市大が1勝1敗であるならば、3チームによる優勝決定戦に臨みます。こんなチャンスは何度も訪れるわけではありません。最後まで、あきらめずに、優勝目指して頑張ります。

21年5月15日 第二試合 東京工芸大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 13:14 ■試合終了時間 15:11 ■ 試合時間 1時間57分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
東京工芸大学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
防衛大学校	0	0	0	0	1	0	0	0	1x	2

芸大:小林、井上 - 佐藤(駿)

防大:浦川 - 伊良皆

<二>

<三> 奥田(防大)

<本>

①7 加藤(山形南)

②8 斎藤(浦和)

③3 原(一条)

④5 秋元(八戸東)

⑤D 奥田(星陵)

⑥6 佐治(栄東)

⑦9 和田(嘉穂)

→9 斎藤佳(川和)(8回表)

⑧2 伊良皆(向陽)

⑨4 加子(小松)

P 浦川(八女)

[1回裏・2回裏・3回裏・4回裏]

三者連続三振を含む7三振に加え、悪走塁によるアウトもあり、最優秀投手賞に王手をかけている浦川を全く持って援護できません。

[1回表・2回表・3回表・4回表]

失点の気配を微塵も感じさせない洗練された投球術で、安打と死球を許しつつも、失点を与えません。

[5回表]

2死から、内野安打と四球で2死1・2塁のピンチを迎えますが、難なく切り抜けます。

[5回裏]

均衡を破る先頭奥田の、右中間への三塁打+三塁悪送球により、先制します。

[6回表・7回表・8回表]

序盤から変化なく、緩急を駆使した良いテンポで打者を押さえ続けます。

[6回裏・7回裏・8回裏]

追加点が欲しいところですが凡打が続き、追加点を奪えません。

[9回表]

1点差で、先頭加藤君に左前安打を許します。その後、凡打で2死3塁としますが、ワイルドピッチで同点とされます。

[9回裏]

同点の場面であり、1点でももぎ取れば、サヨナラ、浦川の最優秀投手賞が確定します。先頭主将齊藤が中前安打で出塁し、続く原が、犠牲バントを試み、悪送球の間に無死1・2塁となります。その後、犠牲バントを4番秋元が決め、1死1・2塁としたところで、本日ランニングホームランもどきを放っているDH奥田に対し、申告敬遠が出され、1死満塁で6番佐治に回りますが、内野ゴロを打つも、アウトとなります。その後、2死満塁のチャンスで、7番齊藤佳に回り、一打サヨナラの場面でサヨナラセンターホーバーで勝利

結果、2-1で防大が勝利しました。

21年5月16日 第一試合 防衛大学校 × 東京工芸大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:49 ■試合終了時間 11:51 ■ 試合時間 2時間2分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
東京工芸大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

防大：高谷 – 伊良皆

芸大：大川 – 高橋（佑）

<二> 加藤（猛）、原（防大）

<三>

<本>

①7 加藤（山形南）

②8 斎藤（浦和）

③3 原（一条）

④5 秋元（八戸東）

⑤D 奥田（星陵）

→H 雉子牟田（加治木）（9回表）

⑥6 佐治（栄東）

⑦9 和田（嘉穂）

→9 斎藤佳（川和）（8回表）

⑧2 伊良皆（向陽）

⑨4 加子（小松）

P 高谷（松本深志）

[1回表・2回表・3回表・4回表・5回表]

安打が出るも、走塁死や凡打で決定機を生かせません。

[1回裏・2回裏]

先発高谷が省エネ投球で、走者を許さず、完投ペースに乗せていきます。

[3回裏]

先頭から連續安打と犠牲バント、四球で、1死満塁のピンチを迎えます。しかし、ここは貧打がゆえに春リーグ中に背負い続けたピンチをくぐり抜けた成果が発揮されます。三塁手秋元の転がった打球を、ベースを踏んでアウトにした後、本塁転送でタッチアウトとします。この優秀の頭脳あふれるプレーでピンチを無失点で切り抜けます。

[4回裏・5回裏]

エラーや四球で走者を背負いますが、この日キレッキレの変化球を駆使し、難なく後続を断ちます。

[6回表]

待望の瞬間が訪れます。先頭加藤のレフト線への二塁打と進塁打で1死3塁のチャンスを作ると、3番原のこの日猛打賞となる右前安打で先制します。

[6回裏・7回裏・8回裏]

工芸は、代打を駆使し、試合の流れを変えようと試みますが、先発高谷は、衰えないその球筋で凡打の山を築きます。

[7回表・8回表]

何とか追加点をもぎ取りたい防大ですが、好投手大川君の前に点を取れません。

[9回表]

先頭原が、4-4となるレフト線への二塁打を放ち、犠牲バントで1死3塁のチャンスを作ります。その後、凡打と四球で2死1・3塁のチャンスとなったところで、昨夜のヒーローである齊藤佳にタイムリー左前安打が飛びだし、待望の2点目を取ります。

[9回裏]

1死からエラーで出塁を許すも、6-4-3のゲッツーで試合終了

結果、2-0で防大が勝利しました。

優勝決定プレーオフに進むための条件を満たすも、市大が国大に敗れ、5チーム中2位、6勝2敗で春シーズンを終えました。また、浦川が敢闘賞と最優秀投手賞のW受賞となりました。

近年の戦績からすると十分に良い成績と言え、自分たちの実力からすると概ね納得のいく結果だと振り返っているところです。しかし、この戦績で悔しいと思えるようになれたことも事実です。この経験を糧に、さらなる成長を遂げ、激戦が予想される秋に1部昇格を達成します。

今後とも応援よろしくお願いします。

【2021年 秋季リーグ】

	国大	鶴大	防大	市大	芸大	田大	勝	負	勝率	順位
横浜国立大学		●○	○○	○○	○○	○○	9	1	0.900	優勝
鶴見大学	○●		○○	○○	○○	○○	9	1	0.900	2位
防衛大学校	●●	●●		●○	●○	○○	4	6	0.400	3位
横浜市立大学	●●	●●	○●		○○	○●	4	6	0.400	4位
東京工芸大学	●●	●●	○●	●●		○●	2	8	0.200	5位
田園調布学園大学	●●	●●	●●	●○	●○		2	8	0.200	6位

※ 1位 2位は優勝決定プレーオフを横浜国立大学が制し、2部優勝

※ 2部 1位 横浜国立大学が 1部 6位 松蔭大学との入れ替え戦を制し、1部昇格

※ 3位 4位、5位 6位は前季順位により決定

2部リーグ 表彰選手

	氏名	大学名
最優秀選手賞	鵜飼 康弘	横浜国立大学
最優秀投手賞	赤澤 昇吾	鶴見大学
首位打者	鋤柄 雄太朗	鶴見大学
打点賞	山野井 一彰	横浜国立大学
敢闘賞	赤澤 昇吾	鶴見大学

21年9月19日 第一試合 田園調布学園大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:52 ■試合終了時間 11:56 ■ 試合時間 2時間4分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
田園調布学園大学	0	0	0	0	0	0	0	0		0
防衛大学校	0	3	1	1	0	0	0	5x		10

田大：中村、氏神 - 平山

防大：浦川、幡谷、志筑 - 伊良皆、小池

<二> 斎藤、加藤（猛）（防大）

<三>

<本>

①7 加藤（山形南）

②8 斎藤（浦和）

③9 斎藤佳（川和）

④3 原（一条）

⑤5 秋元（八戸東）

⑥D 奥田（星陵）

⑦2 伊良皆（向陽）

→R→2 小池（町田）（7回裏）

⑧6 佐治（栄東）

→H 和田（嘉穂）（6回裏）

→6 伊賀（瀬戸）（7回表）

⑨4 加子（小松）

P 浦川（八女）

→幡谷（水戸第一）（2回表）

→志筑（神戸）（7回表）

[1回表・裏]

防大先発の浦川が、先頭をエラーで出塁を許すも、2三振を奪い、無失点に抑える上々の立ち上がりです。対する田調先発中村君も、2死1・2塁のピンチを迎えますが三振で切り向けるなど、コロナ禍での練習不足を感じさせない立ち上がりを見せます。

[2回表]

防大は投手を幡谷にスイッチ。今後を見据えロングリリーフを託します。持前のストレートを武器に、四球で1人歩かせますが無失点で切り抜けます。

[2回裏]

力投を見せる幡谷を援護しようと、打線は先頭奥田のマッスル溢れる左前安打を皮切りに2死2・3塁のチャンスを作り、副主将加藤のレフト線を破る2塁打で2点を先制します。続く主将斎藤もかつての首位打者を予感させる本日2本目のセンターワークの3塁打で1点を追加します。

[3回表、4回表、5回表、6回表]

2回裏の3点を含めこまめに援護をもらった2番手幡谷は、続く回も0を並べ、終わってみれば5回0失点被安打0四死球2奪三振5の快投を見せ、成長を周囲に見せつけました。

[3回裏、4回裏]

打線は、奥田の犠牲フライ、主将斎藤の猛打賞となるライト線を抜ける2塁打でそれぞれ1点を追加します。

[5回裏、6回裏]

追加点が欲しい防大ですが、チャンスを作るもあと一本が出ません。

[7回表]

防大はバッテリーを志筑-小池にスイッチ。先頭に安打を許しますが、三星手秋元の美技から始まる5-4-3のダブルプレーが成立するなど、お互いの練習不足をカバーし合いながら全員野球で投手を盛り立てます。

[7回裏]

田調は投手を氏神君にスイッチ。ピンチを背負うも、本日好調の奥田から三振を奪うなど0失点に抑えます。

[8回表]

1死から守備職人二塁手加子が珍しい捕球エラーを起こしますが、捕手小池の好送球による盗塁阻止もあり、0失点でこの回を終えます。

[8回裏]

0死1塁での伊賀の野球I Qの高さを見せつける技ありピッシュバントを皮切りに、押し出し四球2個、斎藤佳の犠牲フライ、最後はいつもおいしいところをもつていく4番原の中前安打で8回コールド勝利となりました。

結果、10-0で防大が勝利しました。

この秋季リーグはコロナによって開催及び出場が危ぶまれた公式戦でした。しかし、連盟関係者、防大指導官、OBの方々等、多くの方の尽力によって開催及び出場できる運びとなりました。部員一同感謝申し上げます。

今年度は夏合宿が中止になるなど、練習不足は否めません。しかし、そんな中でも野球ができる喜びを噛みしめながら、1部昇格を目指し1戦1戦戦って参ります。OBの方々には、バス代の支援等、多大なご迷惑をおかけしますが、最後まで66期防大硬式野球部の応援をよろしくお願いします。

21年9月25日 第一試合 横浜国立大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:27 ■試合終了時間 12:08 ■ 試合時間 2時間41分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
横浜国立大学	0	0	0	0	1	3	4	8		16
防衛大学校	1	0	0	0	1	0	0	0		2

国大：杉崎、富田、丸山、鵜飼（康） - 河上、馬場

防大：浦川、幡谷 - 伊良皆

<二>守友、川井、中嶋、河上（国大）、斎藤、加藤（猛）（防大）

<三>

<本>藤澤（涼）、川井（国大）

①7 加藤（山形南）

②8 斎藤（浦和）

③9 斎藤佳（川和）

④3 原（一条）

⑤5 秋元（八戸東）

→H 稲川（長岡大手）（6回裏）

→5 伊賀（瀬戸）（7回表）

→H 雉子牟田（加治木）（8回裏）

⑥D 奥田（星陵）

⑦2 伊良皆（向陽）

⑧6 佐治（栄東）

⑨4 加子（小松）

P 浦川（八女）

→幡谷（水戸第一）（7回途中）

[1回表]

初回2死3塁のピンチを背負いますが、防大先発の浦川は気迫溢れる空振り三振を奪い、無失点で切り抜けます。

[1回裏]

エース浦川を早く援護したい防大は1死ランナー無しでの主将斎藤の好走塁含むツーベースヒットを皮切りに3連打で先制します。

[2回表、3回表、4回表]

2回裏は三者凡退、3回裏、4回裏はそれぞれピンチを背負いますが、ギリギリで0を並べます。

[2回裏、3回裏、4回裏]

国大先発杉崎君を攻略できず、いずれも3人での攻撃となります。

[5回表]

流れを引き寄せたい国大は9番川井君のレフトオーバーのツーベースヒットを皮切りに満塁のチャンスを作ります。決定打こそ出なかったものの、押し出しで1点を失い同点を許します。

[5回裏]

勝ち越したい防大は下位打線が意地を見せます。先頭佐治のレフト線への単打を皮切りに9番加子が粘った末の左前安打等により、2死1・3塁までこぎつけます。そこで、国大は左腕富田にスイッチ。四球を挟み、2死満塁としたところで3番齊藤の中前安打で1点を勝ち越します。

[6回表]

1死から代打藤沢君に完璧なソロホームランを打たれ、再び同点とされます。その後、安打にタイムリーエラーが重なり、2点を勝ち越されます。

[6回裏、7回裏]

国大は丸山君に投手をスイッチ。1点でも多く取り返したいところですが、チャンスを作るも点を取れません。

[7回表]

浦川が完全に攻略されます。ヒットと四球で2死満塁のピンチを背負うと9番川井にグランドスラムを打たれます。代わった幡谷が後続を断ちます。

[8回表]

田調戦では好投を見せた幡谷でしたが、この回に打者一巡以上の猛攻を浴び、6点を失います。

[8回裏]

国大は投手を鵜飼君にスイッチ。緩急を駆使したピッティングで防大を三者凡退に抑えます。

結果、2-14で国大が勝利しました。(8回コールド)

残念な結果となり悔しいです。しかし、10年ほどの前の先輩方がコールドの翌日に勝利したということを本日を教えていただきました。それを明日再現できるように全力を尽くします。

21年9月26日 第二試合 防衛大学校 × 横浜国立大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 12:39 ■試合終了時間 14:58 ■ 試合時間 2時間19分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
横浜国立大学	0	8	0	0	1	0	0	1	×	10

防大：志筑 - 小池

国大：吉澤、奈須、早川、鵜飼（康） - 河上

<二> 斎藤、齋藤、小池（防大）

<三> 藤澤（涼）（国大）

<本>

①7 加藤（山形南）

②8 斎藤（浦和）

③9 斎藤佳（川和）

④3 原（一条）

⑤D 和田（嘉穂）

→H 奥田（星陵）（9回裏）

⑥4 加子（小松）

⑦5 秋元（八戸東）

→5 雉子牟田（加治木）（5回表）

⑧2 小池（町田）

⑨6 佐治（栄東）

P 志筑（神戸）

[1回表]

初回斎藤が右前安打で出塁しますが、ダブルプレーで無失点に終わります。

[1回裏]

テンポが売りの右腕志筑が先発。緊張からかいきなり2四球を与え、1死1・3塁のピンチを背負いますが、女房役小池の内野ゴロ悪送球の好捕が飛び出し、無失点で切り抜けます。

[2回表、3回表]

国大先発吉澤君を攻略できず、いずれも3人での攻撃となります。

[2回裏]

スコアをご覧の通り、この回でほぼ試合は決まりました。打者12人5安打3四球にエラーが重なり、8失点を喫しました。国大は、連続長打による得点というわけではなく、単打をコンスタントに打ち、盗塁を織り交ぜるお手本のような攻撃をこの回に見せました。1部とはこのような次元で試合をしているのだということを痛

感しました。

[3回裏、4回裏]

先発志筑はすでに60球以上投げていましたが続投。この回は、本来のピッ칭を取り戻したのか、無死点で終えます。

[4回表]

流れを引き寄せたい防大は、先頭加藤の四球での出塁を皮切りに両斎藤の連打及び、原のエラーを誘う激走で3点を返します。

[5回表、6回表]

国大は投手を奈須君に交代。フレッシュマン小池がいきなりのレフトオーバーのツーベースヒットを放ちますが、後続を抑え込まれ、無失点に終わります。

[5回裏]

被安打は0ながら、四球で出塁を許した先頭川井君の連続スチールに、3塁手雉子牟田が弾いた球を見失うアクシデントが重なり、1点を失います。

[6回裏、7回裏]

先発志筑はすでに球数が100球を超えていましたが続投。徐々に先頭を打ち取れるようになり、0を並べます。

[7回表]

国大は投手左腕早川君に交代。2四球でチャンスを作りますが、ダブルプレーに倒れます。

[8回裏]

先頭に出した走者をまたもエラー2個で生還を許します。

[8回表、9回表]

国大は投手を鶴飼君に交代。春にも苦戦を強いられた緩急溢れるピッ칭に4三振を喫し、試合終了。

結果、3-10で国大が勝利しました。

本日の負けによって優勝の可能性は格段に低くなりました。しかし、66期政権として秋勝率5割を達成すべく残り7試合を全力で戦います。

21年10月2日 第一試合 鶴見大学 × 防衛大学校 鶴見大学グラウンド

■試合開始時間 10:53 ■試合終了時間 12:59 ■ 試合時間 2時間6分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
鶴見大学	3	0	0	1	1	0	1	0	0	6
防衛大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

鶴大：赤澤、森 - 鋤柄

防大：井上、浦川、幡谷、志筑 - 伊良皆

<二> 鋤柄、黒澤2、藤原（雄）（鶴大）

<三>

<本>

- ①7 加藤（山形南）
- ②8 斎藤（浦和）
- ③9 斎藤佳（川和）
- ④3 原（一条）
- ⑤D 和田（嘉穂）
- ⑥6 佐治（栄東）
- H 奥田（星陵）（5回裏）
- 6 伊賀（瀬戸）（6回表）
- ⑦2 伊良皆（向陽）
- ⑧5 秋元（八戸東）
- ⑨4 加子（小松）
- P 井上（浦和）
- 浦川（八女）（1回裏途中）
- 幡谷（水戸第一）（5回裏）
- 志筑（神戸）（6回裏）

[1回表]

悪い流れを断ち切るべく、公式戦初登板となる井上が先発を務めます。2死までこぎつけますが後続を断ち切れず、2/3回で降板となります。継投した浦川は、二塁打は打たれるものの最少失点で切り抜けます。

[1回裏、2回裏、3回裏、4回裏、5回裏]

鶴見先発左腕赤澤君に3回までは一人の走者も出さない完全投球、4回からはノーヒットノーランを続けられます。防大打線は鋭いスライダーとインコースのストレートに手が出ません。

[2回表、3回表]

伊良皆の好送球も光り、両回の攻撃を3人で終わらせます。

[4回表]

先頭黒澤君に右中間への二塁打を打たれ、その後二つのタッチアップで1点を追加されます。

[5回表]

3番手幡谷がリリーフ。2死までこぎつけますが、連打を浴び1点を失います。

[6回表]

4番手志筑を登板。先頭に死球を与えますが、その後は本来のリズムを取り戻し、0点に抑えます。

[6回裏]

先頭がエラーで出塁すると、9番加子が記録を阻止する左前安打を放ちます。相手投手も変わりますが、2死満塁のチャンスまでつなぎますが、あと1本が出ません。

[7回表]

先頭を四球で出塁させ、内野ゴロの間に1点を失います。

[7回裏]

1点集中のDH和田がその1点を当て、右前安打で出塁しますが盗塁死し、単調な攻撃となってしまいます。

[8回表、9回表]

4番手志筑がテンポの良い投球を取り戻し、0失点で打線の援護を待ちます。

[8回裏、9回裏]

3三振を喫し、外野まで打球を飛ばすことも叶わずゲームセット。

結果、6-0で鶴見大が勝利しました。

64期政権時の秋のジャイアントキリングとはなりませんでしたが、後半になるにつれ徐々に防大らしい試合展開ができつつあると感じております。

21年10月3日 第三試合 防衛大学校 × 鶴見大学 侯野公園野球場

■試合開始時間 15:59 ■試合終了時間 18:06 ■ 試合時間 2時間7分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鶴見大学	0	0	0	0	0	0	0	3	×	3

防大：浦川、志筑 - 伊良皆

鶴大：棄野 - 鋤柄

<二> 加藤（猛）（防大）

<三> 松本（鶴大）

<本>

①9 斎藤佳（川和）

②4 加子（小松）

③3 原（一条）

④8 斎藤（浦和）

⑤7 加藤（山形南）

⑥D 稲川（長岡大手）

→D 和田（嘉穂）（9回表）

⑦2 伊良皆（向陽）

→H 奥田（星陵）（9回表）

⑧5 秋元（八戸東）

→R→6 佐治（栄東）（8回表）

⑨6→5 伊賀（瀬戸）

P 浦川（八女）

→志筑（神戸）（8回裏途中）

[1回表]

初回先頭が斎藤佳が左前安打で出塁しますが、無失点に終わります。

[1回裏]

エース浦川が先発。初回エラーと安打で1死2・3塁のピンチを背負いますが、フライアウトと内野ゴロで0失点でしのぎます。

[2回表]

1死から副将加藤が二塁打で出塁しますが、後続が抑えられます。

[2回裏]

貫禄のピッチングで3者凡退で切り抜けます。

[3回表、4回表]

相手先発栗野君もさすがは1部を経験した投手と言わんばかりの圧巻のピッチングで0失点で抑えます。精度の高い変化球に伸びのあるストレートを織り交ぜ、的を絞らせない投球を続けます。

[3回裏]

先頭から内野安打と1塁側へのセーフティーバントの二つの内野安打で無死1・2塁のピンチを背負いますが、捕手伊良皆のベンチ近くまで走りファールフライをつかみ取る気迫のプレーで1死を取り、盗塁、フライアウト、死球で2死満塁の大ピンチを背負いますが、内野ゴロで何とかしのぎます。

[4回裏]

上位打線に回したくないところで、何とか下位打線3人で攻撃を終わらせます。

[5回表]

2四球を選び、2死1・3塁のチャンスを作りますが1本が出ません。

[5回裏]

2死からの連打で2死1・2塁のピンチを背負いますが、内野フライに打ち取ります。

[6回表、7回表]

ますますギアを上げてきた栗野君に、三者連続三振を含み完全に抑えられます。

[6回裏、7回裏]

そんな栗野君に対抗するように2回を三者凡退で抑え、打線に臨みを懸けます。

[8回表]

先頭秋元が久々の安打で出塁し、代走のスペシャリスト佐治を投入、伊賀の犠牲バントでつなぎ、起死回生の一打に懸けて1死2塁のチャンスを作りますが、2者連続三振に倒れます。

[8回裏]

死球で連打で1死2・3塁のピンチを背負います。再三ぐりぬけてきたピンチであり、無死1・2塁での相手のバントを捕手伊良皆の好判断、好送球で三塁フォースアウト、一死から左中間のあたりを加藤がナイスキャッチなど、ファインプレーが随所に見られましたが、7番加藤君に1塁戦を抜かれる3塁打を放たれ、浦川はついに力尽きます。後を受けた志筑も1点を失い、大きな3点を失います。

[9回表]

先頭原が四球を選び、1死から加藤も四球、2死から代打奥田が中前安打で2死満塁のチャンスを作りますが、8番佐治がサードゴロに倒れ、試合終了。

結果、3-0で鶴見大が勝利しました。

本日の敗北によって1勝4敗となりました。勝率5割に向けここから5連勝が必要となりましたが66期政権として最後まで戦い抜きますのでご声援のほどよろしくお願いします。

また、多数のOBの方等から差し入れをいただいております。こちらも大変励みになっております。本当にありがとうございます。

21年10月9日 第一試合 防衛大学校 × 東京工芸大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:52 ■試合終了時間 11:38 ■ 試合時間 1時間46分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
東京工芸大学	0	2	1	0	0	0	0	1	×	4

防大：志筑、幡谷、浦川 - 小池、伊良皆

芸大：大川 - 佐藤（駿）

<二> 大川（芸大）

<三> 斎藤（防大）

<本>

- ①9 斎藤佳（川和）
- ②D 雉子牟田（加治木）
- ③3 原（一条）
- ④8 斎藤（浦和）
- ⑤7 加藤（山形南）
- ⑥6→5 伊賀（瀬戸）
- ⑦5 秋元（八戸東）
- H 和田（嘉穂）（8回表）
- 6 佐治（栄東）（8回裏）
- ⑧2 小池（町田）
- ⑨4 加子（小松）
- P 志筑（神戸）
- 幡谷（水戸第一）（7回裏）
- 浦川（八女）（8回裏）

[1回表]

鶴見2戦目の好ゲームの雰囲気を引き継ぐように、初回雉子牟田の内野安打を皮切りに1点を先制します。

[1回裏]

防大先発は志筑。本日はテンポに制球力が加わったような投球から始まり、初回を三者凡退で終えます

[2回表、3回表]

工芸先発二刀流の大川君は、キレのあるストレートとチェンジアップを軸としたピッチングで両回を三人で終えます。

[2回裏]

5番投手の大川君に左中間を破る二塁打を打たれ、エラーもあり、この回2点を失います。

[3回裏]

二個の死球とWPで1点を失います。また、この回に直接点には結びつかなかったものの、再び大川君に安打を打たれます。

[4回表]

2死から主将斎藤と左中間への三塁打でチャンスを作りますが、後続が倒れ0点で終えます。

[4回裏、5回裏、6回裏]

序盤不安定な投球が続いていましたが、リズムを取り戻し、3回を0点で抑え、打線の奮起を待ちます。

[7回裏]

2番手幡谷がリリーフ。1点も与えられない場面で、3者凡退で抑えます。

[8回裏]

3番手エース浦川が登板。1死2塁のピンチで再び大川君に右前安打を打たれ、1点を失います。

[5回表、6回表、7回表、8回表、9回表]

大川君は尻上がりに調子を上げ、防大打線は完全に沈黙し、1安打も放つことができませんでした。ゲームセット。

結果、1-4で工芸大が勝利しました。

工芸の大川君を中心とした勢いに飲まれ、本来の防大のテンポに引き戻すことができませんでした。明日は、勝率5割へ向けラストチャンスとなります。今まで以上に気持ちを入れて戦います。

ご声援のほどよろしくお願ひします。

21年10月10日 第二試合 東京工芸大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 12:42 ■試合終了時間 14:54 ■ 試合時間 2時間12分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
東京工芸大学	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
防衛大学校	0	0	3	0	0	0	0	4	×	7

芸大:小林、深谷 - 佐藤(駿)

防大:浦川、幡谷 - 伊良皆

<二>斎藤(防大)

<三>齋藤(防大)

<本>神尾(芸大)

①9 斎藤佳(川和)

②7 加藤(山形南)

③3 原(一条)

④8 斎藤(浦和)

⑤D 雉子牟田(加治木)

⑥6→5 伊賀(瀬戸)

⑦2 伊良皆(向陽)

⑧5 秋元(八戸東)

→H 和田(嘉穂)(6回裏)

→6 佐治(栄東)(7回表)

⑨4 加子(小松)

P 浦川(八女)

→幡谷(水戸第一)(9回表)

[1回表、2回表、3回表]

防大先発は浦川。エースとしてチームを引っ張ります。3回まで4三振を奪い、パーカットピッチングを続けます。

[1回裏]

昨日の嫌な流れを払拭するように、初回1死から加藤の左前安打の内野安打を皮切りに2死1・3塁のチャンスを作りますが、盗塁失敗でこの回を終えます。

[2回裏]

先頭雉子牟田がエラーで出塁しますが、後続が倒れます。

[3回裏]

試合が動きます。9番加子の右前安打、1番斎藤佳の左前安打、犠牲バント、四球を絡め、ワイルドピッチと4番斎藤のスリーベースで3点を先制します。

[4回表]

完全投球を続けていた浦川ですが、この回投球を乱し、押し出しで1点を失います。

[5回表]

安打で一人の走者を背負いますが、センター斎藤の好ポジショニングで0点で抑えます。

[4回裏、5回裏]

追加点が欲しい回が続きますが、工芸先発小林君もじりじりと調子を上げ、いずれも3人で攻撃を終えます。

[6回表]

先頭神尾君にレフトへのソロ本塁打でリードが1点となります。後続を断ち、最少失点で終えます。

[7回表]

2死3塁のピンチを背負いますが、何とか0点で終えます。

[6回裏、7回裏]

いずれの回もチャンスを作りますが、あと一本が出ず、0点で終えます。

[8回表]

この日一番のピンチを迎えます。再び先頭神尾君に右前安打で出塁を許し、2四死球で、1死満塁のピンチを背負います。そこで、ショート佐治が横飛びでセンターへ抜けそうな打球を処理し、ファースト原の好捕もあり、2死2・3塁としますが、その間に1点を失います。さらに。投手強襲のゴロを打たれますが、転がった打球をセカンド加子が冷静に処理し、逆転を許さず、最少失点で切り抜けます。

[8回裏]

1死から四球で伊賀が出塁し、2死1塁となったところで、エンドランを敢行。初打席佐治のライトへの痛烈の打球をライトが後逸。その間に伊賀が生還し1点を勝ち越します。その後、斎藤佳の右中間への3塁打、エラーも重なり、この回4点をもぎ取ります。

[9回表]

最終回は幡谷が登板。3者凡退で抑え、ゲームセット。

結果、7-3で防衛大が勝利しました。

勝率5割へ向け大きな1勝となり、長い連敗脱出となる勝利となりました。この勝利を皮切りに勝率5割及び2季連続の上位3チームを達成します。

ご声援のほどよろしくお願ひします。

21年10月16日 第一試合 防衛大学校 × 横浜市立大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 09:57 ■試合終了時間 12:27 ■ 試合時間 2時間30分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
横浜市立大学	0	2	1	0	0	0	0	0	×	3

防大：浦川 - 伊良皆

市大：井上 - 厨川

<二>厨川、竹森、植川（市大）

<三>

<本>

①9 斎藤佳（川和）

②7 加藤（山形南）

③3 原（一条）

④8 斎藤（浦和）

⑤D 奥田（星陵）

⑥6→5 伊賀（瀬戸）

⑦2 伊良皆（向陽）

⑧5 秋元（八戸東）

→H 和田（嘉穂）（6回表）

→R→6 佐治（栄東）（7回裏）

⑨4 加子（小松）

→H 雉子牟田（加治木）（9回表）

P 浦川（八女）

[1回表]

先攻の防大は、初回先頭の斎藤佳の中前安打を皮切りに2死2塁のチャンスを作り、主将斎藤の中前安打で1点を先制します。

[1回裏]

防大先発は浦川。死球を与えますが、捕手伊良皆の盗塁阻止もあり、3人で終わらせます。

[2回表、3回表、4回表、5回表]

市大先発井上君は、緩急をつけたピッチングで、四球でランナーを出しますが、決定打を許さず0を並べます。

[2回裏]

単打と死球で2死2・3塁のチャンスを作った市大は、8番厨川君のライト線への二塁打で2点をとり、勝ち越しに成功します。

[3回裏]

先頭をセーフティーバントで出塁を許し、1死2塁となったところで左前安打を打たれ1点を追加されます。さらに右前安打と四球で満塁のピンチを背負いますが、何とか追加点を許しません。

[4回裏]

流れを引き寄せたいところで、四球で一人走者は出しますが、浦川も徐々にペースを戻し、0点に抑えます。

[5回裏]

先頭竹森君にライト線への二塁打を打たれ、エラーと死球で2死満塁のピンチを背負いますが、0点に抑えます。

[6回表]

エラー、安打、四球で1死満塁のこの日最大のチャンスを作りますが、加子、斎藤佳が倒れ、0点で攻撃を終えます。

[6回裏、7回裏]

本来のリズムを取り戻した浦川が、両回ともに走者を背負いますが、0点で抑えます。

[8回裏]

四球1死球1、二塁打1単打1という猛攻を受けますが、サードに回った伊賀の好プレーもあり、何とか0点に抑え、最終回に望みを懸けます。

[7回表、8回表、9回表]

いずれの回も浮上のきっかけをつかめず、試合終了。

結果、1-3で市大が勝利しました。

勝利5割の可能性が0になり、非常に悔しいとしか言いようがありません。ここからは、3位になるか最下位になるかという展開になってきます。2連勝を必ず達成します。

ご声援のほどよろしくお願ひします。

なお、来週からの試合につきましては3学年佐治学生に担当が変わります。ご愛読ありがとうございました。

21年10月23日 第二試合 防衛大学校 × 田園調布学園大学 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 12:36 ■試合終了時間 14:24 ■ 試合時間 1時間48分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
防衛大学校	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
田園調布学園大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

防大：志筑 - 伊良皆

田大：中村 - 平山

<二>

<三>

<本>

- 1 (右) 斎藤 (川和)
右 和田 (嘉穂) (9回裏)
- 2 (左) 加藤猛 (山形南)
- 3 (一) 原 (一条)
- 4 (中) 斎藤 (浦和)
- 5 (指) 奥田 (星陵)
- 6 (二) 雉子牟田 (加治木)
打 菅崎 (岡山城東) (8回表)
二 佐治 (栄東) (8回裏)
- 7 (捕) 伊良皆 (向陽)
- 8 (三) 秋元 (八戸東)
- 9 (遊) 伊賀 (瀬戸)
- P 志筑 (神戸)

[1回表]

先制点を取りたい防大ですが、田調大の技巧派左腕・中村のテンポ良い投球の前に三者凡退に倒れます。

[1回裏]

防大の先発・志筑も三者凡退に抑え、見事な立ち上がりを見せます。

[2回表]

1死から5番・奥田がチーム初ヒットを放ちますが、後続が倒れ得点を奪えません。

[2回裏]

先頭打者に四球を与えてしまい、その後得点圏にランナーが進みますが、ライト斎藤の好捕などもあり無失点に切り抜けます。

[3回表]

伊良皆のセンター前ヒット、斎藤の内野安打などで防大が2死満塁のチャンスを作りますが、田調大の中村が踏ん張り、あと1本が出ず無得点に終わります。

[3回裏]

9番・落合に初ヒットを許しますが、5-4-3の併殺を完成させ得点を許しません。

[4回表]

2度目の首位打者獲得を狙う主将・斎藤がヒットで出塁するも無得点に終わります。

[4回裏]

ヒットと四球でピンチを迎ますが、この日負傷欠場の加子に代わりセカンドで先発出場の雉子牟田がセカンドゴロを捌き、無失点に抑えます。

[5回表・5回裏]

互いにヒットが出ず無得点に終わります。

[6回表]

先頭の斎藤が四球で出塁し、その後2死二塁のチャンスを作ると、7番・伊良皆に先制タイムリーが飛び出し、ついに先制に成功します。三塁コーチャー菅崎の好判断が光りました。さらに8番・秋元にもタイムリーが生まれ、力投を続ける志筑を援護します。

[6回裏・7回表・7回裏・8回表]

尻上がりに調子を上げる志筑と、先制を許した後も粘り強いピッティングを続ける中村が好投を続け、三者凡退に終わります。

[8回裏]

2死から四球で久々のランナーを背負いますが、後続を打ち取ります。

[9回表]

ここまで不調に苦しんでいた秋元がこの日2本目のヒットを放ち、復調の兆しを見せますが、得点を奪えません。

[9回裏]

5回以降安定した制球と球威でヒットを許さなかった志筑が最後まで投げ切り、二者連続の見逃し三振で最終回を締め、完封を達成。ゲームセットとなりました。

結果、2-0で防衛大が勝利しました。

これで最終戦に勝てば3位となる状況になりました。勝率5割達成はなりませんでしたが、最終戦の横浜市立大に勝ち、66期チーム最後のシーズンを1つでも上の順位で終えられるよう全力で戦って参ります。

ご声援のほどよろしくお願ひします。

21年10月24日 第二試合 横浜市立大学 × 防衛大学校 東京工芸大学グラウンド

■試合開始時間 12:46 ■試合終了時間 16:00 ■ 試合時間 3時間14分

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
横浜市立大学	0	4	0	1	2	0	0	0	0	0	7
防衛大学校	1	0	0	0	2	0	3	0	1	1x	8

市大：井上、遠江、小出（駿） - 竹森

防大：浦川、志筑 - 伊良皆

<二>高橋2、木村（市大）

<三>斎藤（防大）

<本>

1	(右)	齋藤	(川和)
2	(左)	加藤猛	(山形南)
3	(一)	原	(一条)
4	(中)	斎藤	(浦和)
5	(指)	和田	(嘉穂)
6	(二)	雉子牟田	(加治木)
	打	奥田	(星陵)
	三	秋山	(舟入)
7	(捕)	伊良皆	(向陽)
8	(三)	秋元	(八戸東)
	遊二	佐治	(栄東)
9	(遊三遊)	伊賀	(瀬戸)
P		浦川	(八女)
		志筑	(神戸)

[1回表]

ヒットと四球でピンチを迎えますが、先発・浦川が内野フライに打ち取りピンチを脱します。

[1回裏]

防大が市大の先発・井上の立ち上がりを攻めます。四球と申告敬遠で迎えたチャンスで5番・和田がライトへのタイムリーヒットを放ち率先良く先制に成功します。

[2回表]

市大がエラーと野選に3本のヒットを絡め、この回一挙4点を取り逆転します。

[2回裏]

好調の先頭伊良皆がヒットを放ち、併殺崩れでランナーが入れ替わった後、防大は早くも勝負を仕掛け1塁走者に代走・佐治を送りますが、盗塁に失敗しチャンスが潰れます。

[3回表・3回裏]

互いにランナーを出しますが得点には繋がりません。

[4回表]

四球で出たランナーを5番・坂本にタイムリーヒットで返され、5点目を奪われます。

[4回裏]

巻き返したい防大ですが三者凡退に终わります。

[5回表]

1死一・三塁から1番・木村が2点タイムリーとなる二塁打を放ち、点差を広げられます。ここで防大は継投に入り、昨日完封の好投を見せた志筑がなおも続くピンチを抑えます。

[5回裏]

またしても先頭の伊良皆がヒットで出塁し、その後四球と犠打で作ったチャンスで1番・齋藤のセンターへのタイムリーヒットで2点を返します。

[6回表]

好打者・小出にヒットを打たれるものの、後続を抑えます。

[6回裏]

市大はピッチャーをエース・遠江にスイッチ。立ち上がり制球の定まらない遠江から四球でチャンスを作りますが、無得点に终わります。

[7回表]

ランナーを出しますが志筑が落ち着いた投球を見せ無失点に抑えます。

[7回裏]

佐治、加藤猛、原の3つの四球で2死満塁のチャンスを作ると、主将・斎藤がレフトの頭を超える3点タイムリースリー・ベースを放ち、1点差まで詰め寄ります。

[8回表]

守備に乱れが出て2死満塁のピンチとなりますが、ライトフライに抑えて得点を与えません。

[8回裏・9回表]

8回から市大のピッチャーは4番も務める二刀流・小出に交代。両チームランナーを出しますが得点には繋がりません。

[9回裏]

先頭・斎藤が四球を選び、加藤猛の犠打で1死二塁のチャンスを作ると、3番・原がライトへの同点タイムリーヒットを放ちついに同点に追い付きます。

[10回表]

連盟規定により無死一・二塁のタイブレークで試合が再開します。犠打失敗から6番・高橋にうまくセンターに運ばれ1死満塁となります。外野フライで2死となつた後、フルカウントから志筑が空振り三振に抑え、無失点に抑えます。

[10回裏]

犠打野選で無死満塁となつた後、2つの内野ゴロで2死となります。1番・齋藤がセンター前にタイムリーヒットを放ち、サヨナラでのゲームセット。一時は6点差となりましたが、連投ながらリリーフで好投した志筑に応えるように上位打線が好機で悉くランナーを返し、逆転での勝利となりました。

結果、8-7で防衛大が勝利しました。

これで横浜市立大と成績が並んだため、前シーズン順位が上だった防衛大が3位となりました。最終戦で6点差をひっくり返す好ゲームとなり、66期生の引退に花を添えることができ嬉しく思います。

これにて令和3年度リーグ戦の全日程が終了しました。

最後になりますが、多くの差し入れを含め関係者やOBの方々のご支援・ご声援が大変力になりました。本当にありがとうございました。

今後は67期政権のもと活動することになりますが、引き続き応援のほどよろしくお願いします。

【平成・令和期の順位】

年代	1部春順位	1部秋順位	2部春順位	2部秋順位
平成元年	5	6		
平成2年	5	6		
平成3年	6	6		
平成4年			1	1
平成5年			1	1
平成6年	6			1
平成7年		6	1	
平成8年			1	1
平成9年			1	1
平成10年			1	1
平成11年			1	2
平成12年			1	1
平成13年			1	1
平成14年			1	1
平成15年			2	1
平成16年			2	1
平成17年			2	1
平成18年			4	2
平成19年			3	3
平成20年			4	4
平成21年			4	3
平成22年			4	4
平成23年			4	3
平成24年			5	5
平成25年			5	3
平成26年			4	3
平成27年			4	5
平成28年			4	4
平成29年			3	2
平成30年			6	5
令和元年			5	4
令和2年			中 止	5
令和3年			2	3

【歴代の受賞者】

年代	部	氏名	受賞内容
昭和33年（春）	1	金子 由成	首位打者
昭和39年（秋）	1	渡辺 広志	首位打者
昭和41年（春）	1	河村 嘉宏	ベストナイン（外野手）
昭和43年（春）	1	福井 祐輔	ベストナイン（外野手）
昭和43年（春）	1	久玉 清人	首位打者
昭和44年（春）	1	井上 洋	ベストナイン（二塁手）
昭和44年（秋）	1	清水 元	首位打者
昭和48年（秋）	1	寺崎 芳治	ベストナイン（一塁手）
昭和48年（秋）	1	近松 和昭	ベストナイン（三塁手）
昭和49年（春）	1	斎藤 亮二	ベストナイン（一塁手）
昭和49年（春）	1	石井 雅久	ベストナイン（外野手）
昭和49年（秋）	1	片山 和美	敢闘賞
昭和50年（春）	1	小深田 元	ベストナイン（二塁手）
昭和50年（春）	1	吉村 志郎	ベストナイン（外野手）、首位打者
昭和50年（秋）	1	鎌田 正広	ベストナイン（遊撃手）
昭和50年（秋）	1	大池 宜行	ベストナイン（外野手）、首位打者
昭和51年（春）	1	島田 徹也	ベストナイン（三塁手）
昭和51年（春）	1	鎌田 正広	ベストナイン（遊撃手）
昭和51年（春）	1	大池 宜行	ベストナイン（外野手）
昭和51年（秋）	1	大池 宜行	ベストナイン（外野手）
昭和52年（秋）	1	島田 徹也	ベストナイン（三塁手）
昭和57年（春）	1	徳永 浩敏	ベストナイン（捕手）
昭和57年（春）	1	山崎 幸二	ベストナイン（二塁手）
平成2年（春）	1	前島 秀彦	ベストナイン（一塁手）
平成18年（秋）	2	田之倉 威啓	敢闘賞
平成23年（秋）	2	西原 功二	首位打者
平成23年（秋）	/	西原 功二	校友会褒章
平成24年（春）	2	大橋 健人	打点賞
平成25年（春）	2	尾崎 瑞樹	首位打者
平成25年（秋）	2	尾崎 瑞樹	首位打者
平成26年（秋）	2	尾崎 瑞樹	打点賞
平成26年	/	笠原 千鶴	校友会褒章
平成29年（春）	2	大沼 直觀	打点賞
平成29年（秋）	2	尾藤 郷志	敢闘賞
平成29年	/	硬式野球部	校友会褒章
令和元年（秋）	2	斎藤 理希	首位打者
令和3年（春）	2	浦川 徳紫	最優秀投手賞、敢闘賞

(※判明分)

9. OB会だより

1 OB会費について

OB会費の振り込み先は下記の通りとなっております。

普通会費：1口 5,000円/年、終身会費（50歳に達した方）：50,000円

口座番号：ゆうちょ銀行 当座 店番 029 00260-7-1912

口座名義：防衛大学校硬式野球部OB会

（通信欄に「期別」「普通会費／終身会費／寄付」をご記入ください。）

※ 終身会費を納めた方も、寄付等頂ければ幸いです。

以下、参考【防大硬式野球OB会会則】

第21条 会 計

- 普通会員（※）は1年1口（5,000円）以上を納める。
- 50歳に達した普通会員は、その時以降、終身会費として5万円を納める。
- 会員の随意あるいは評議委員会が会員に要請するときは、寄付金を収めることができる。

2 ホームページ、SNSについて

検索エンジンにて、「防衛大学校 硬式野球部」と入力ください。

逐次、公式ホームページ、インスタグラム、ツイッターにて試合情報等を更新中です。

3 リーグ戦Y o u T u b e放映について

現在のコロナ情勢により、リーグ戦の一般観戦に制限がかかっております。

そのため、昨春リーグ戦より連盟としてY o u T u b eライブ配信を実施しております。Y o u T u b e検索にて「神奈川大学野球連盟 2部」と入力ください。過去動画含め、ほぼ全試合の様子が確認できます。

10. 編集後記

66期のみなさん、4年間お疲れ様でした。昨年と同様、新型コロナウイルスの影響を強く受け、チームの運営に大変苦労された1年間だったと思います。また、新チームになった頃はチーム内で衝突が起こったり、試合でも思うような結果を残せなかつたりと、決して順風満帆な道のりではなかったでしょう。そんな中、リーグ戦では春2位、秋3位と躍進できたのは、ひとえに66期の方々が努力された結果だと思います。

また、編集にあたり66期の方々の様々な言葉に触れ、共にプレーしているだけでは分からなかった心境を知ることができました。こういった思いを継承し、硬式野球部の更なる発展に繋げていくことが私たちの責任でもあると思います。66期の方々の思いも背負って部員一同活動に励んでまいります。

最後になりますが、球友を作成する上で、現在の活動が監督やOB会など様々な方々に支えられているものだと実感することができました。感謝の気持ちを忘れずにこれからも戦っていきたいと思います。今後ともご支援とご声援のほどよろしくお願いします。

66期のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんと一緒に野球ができるて楽しかったです。本当にありがとうございました。



OB係 佐治 晓 67期（陸）